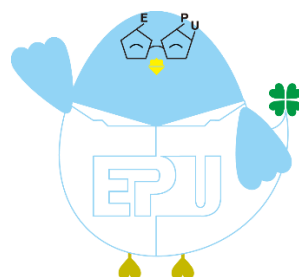
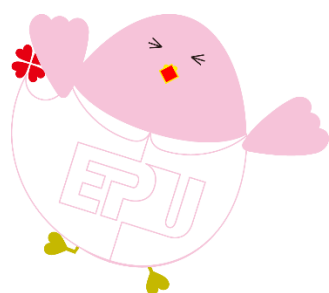


地域交流センター〔ELCC〕

EPU-Local Community Center

活動報告書

令和4年度



公立大学法人 愛媛県立医療技術大学

目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能	2
II 地域交流センター事業報告	
人材育成機能	
1. 令和4年度第12回ホームカミングデー	4
2. 令和4年度臨床検査実践セミナー（愛臨技学部・医技大合同研修会）	13
3. 思春期保健スキルアップ研修会	14
4. 母子のための地域包括ケアシステム推進研修会	18
5. 愛媛県看護教員継続教育研修事業	21
6. 令和4年度えひめ高校生生体機能研究プログラム	26
7. ひろた子どもあそび広場「科学体験教室」	32
8. ブックトーク&メディカルトーク	34
9. 麻生小学校「校区探検」	35
10. 夏休み理科教室「からだのひみつをしろう」	38
III 相談支援	40
IV 調査研究	42
V 教員の社会貢献活動報告	
1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援	44
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言	47
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応	48
4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援	51
5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動	52
6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱された ボランティア活動等）	63
VI 学生の地域交流活動報告	
1. 学生ボランティア登録制度	66
2. 学生サークルの地域交流	67
VII 地域への施設開放状況	69
VIII 参考資料	
1. 地域交流センターの組織	72
2. 公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程	73
3. 公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程	75
4. 学生ボランティア登録サイトの開設について	77

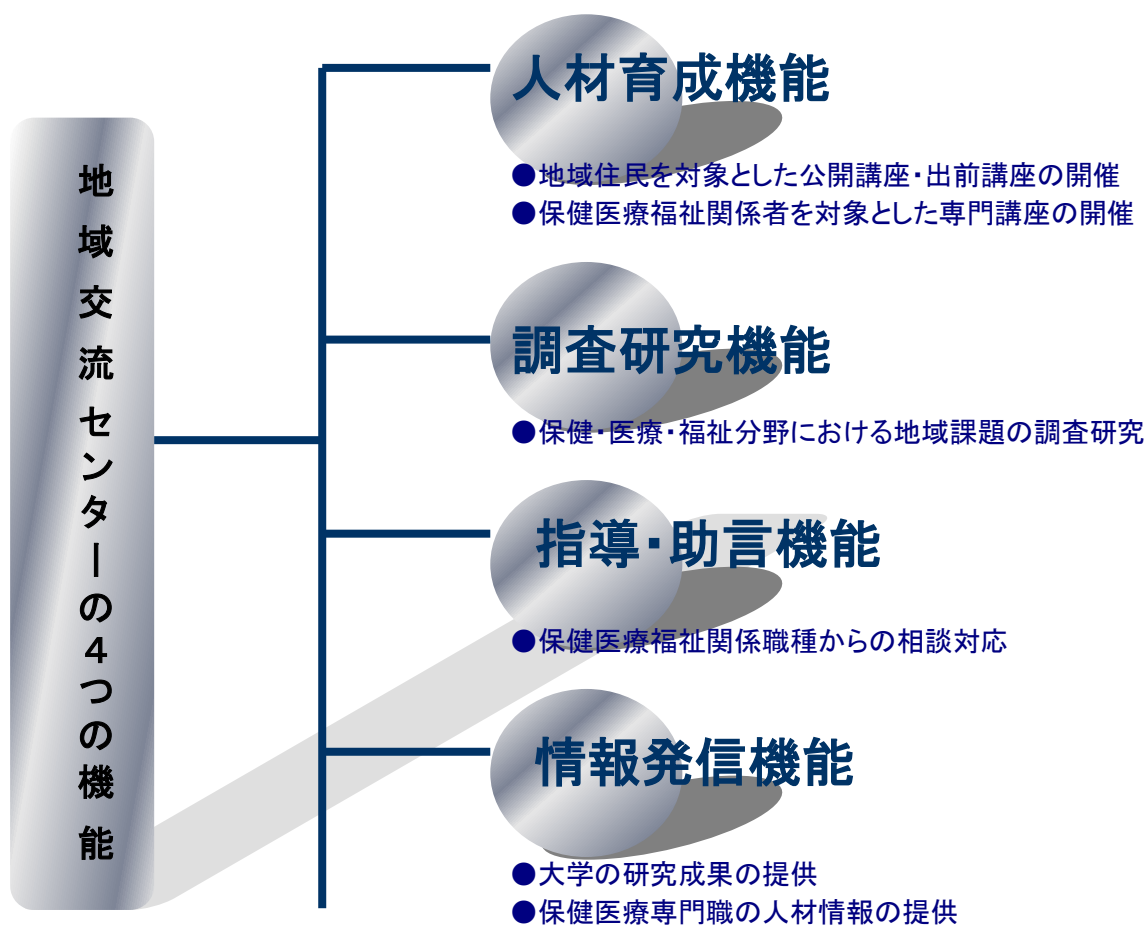
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1. 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成16年4月に設置した。

2. 地域交流センターの4つの機能



※国際交流事業等で地域交流センターを紹介するための英文名称を、令和2年11月2日の運営調整会議の承認を得て『EPU—Local Community Center (ELCC)』とした。

Ⅱ 地域交流センター 事業報告

II 地域交流センター事業報告

人材育成機能

1. 令和4年度第12回ホームカミングデー

1) 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が本学に帰って旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、卒業生と在学生の交流の促進および在学生の職業意識の向上を図る。

2) 実施主体・連携協力機関

新型コロナウイルス感染症の拡大により、全体会および分科会はオンライン参加と対面参加のハイブリッド形式で開催し、本学同窓会（木蓮会）の総会と会食は実施しなかった。

3) プロジェクトメンバー

実行委員長：尾上智子講師（地域交流センター員）

実行委員：越智百枝地域交流センター長、谷本淳子助教、伊藤美香助教、佐川輝高特任講師、矢野弘子助教、河江謙之専門員、岸田直樹主任

看護師分野：田中昭子准教授、窪田静准教授、坂元勇太助教

保健師分野：入野了士准教授、瀬戸裕一助教

助産師分野：今村朋子准教授、井上明子講師

臨床検査技師分野：高田智世准教授、細川翔助教

4) 事業内容

(1) 日時： 令和4年6月18日 10:00～12:30

全体会 10:00～10:30 / 分科会 10:40～12:30

(2) 場所： 医技大キャンパス

全体会：116 講義室

分科会：116・117 講義室・122（学生ホール）、216 講義室、
257・258 講義室、355・356 講義室

(3) 参加者数： 全体会：卒業生12名 在学生32名 教職員37名 合計81名

分科会：卒業生29名 在学生80名 教職員37名 合計146名

(4) 実施内容：

全体会：開会の辞、学長挨拶、EPU 大学院の紹介、木蓮会紹介、閉会の辞

分科会：ゲストスピーカー（卒業生）による講演、卒業生と在学生の交流会

全体会は多くの参加者がオンラインあるいは対面で参加し、安川正貴学長のお話や中西純子学部長・研究科長による大学院紹介、木蓮会の活動紹介に熱心に耳を傾けていた。

全体会の後は各分科会に分かれ、ゲストスピーカーによる講演および卒業生と在学生の交流会がオンラインと対面のハイブリッド形式で行われた。全ての分科会において、閉会後も卒業生と在学生が会場に残って話し込む様子が見られたことから、両者の交流の促進および在学生の職業意識の向上という本行事の目的は十分に果たされたものと考えられる。

看護師分野分科会 報告書

日時：令和4年6月18日（土）10：40～12：30

参加者：16名

卒業生7名（ゲストスピーカー2名来学、来学3名、オンライン2名）

在校生9名（3年生4名；オンライン3名・来学1名、2年生1名；オンライン1名、
1年生4名；オンライン3名・来学1名）

前半は、本学の卒業生であるゲストスピーカー2名から「卒業後の私の歩み」というテーマでそれぞれお話ししていただき質疑応答を行った。松山記念病院の大田彩美さんからは、新卒で精神科病院に就職した動機や本学大学院に進学した理由、大学院に進学してどうだったか、後輩に伝えたいことについてお話があった。質疑応答では、来学の在校生から精神科看護の業務についての質問などがあった。



また、本学基礎看護学講座の北川恵先生からは、看護師や養護教諭、看護教員などを経験し、その過程で専門資格を取得したり、大学院博士後期課程まで進学したこと、県外で勤務した経験から外に目を向けることの大切さについてお話があった。質疑応答では、来学の卒業生や在校生から食事の援助についての質問などがあった。ゲストスピーカー2名のお話や質疑応答から、様々なキャリアの積み重ね方があり、自分に合った進路を見つければよいことが参加者に伝わったと思う。また、大学院進学についても身近に感じてもらえたのではないかなと思う。

後半は、卒業生と在校生の交流を図るため、参加者を3つのグループに分け、グループワークを行った。在校生から卒業生に「実習と就職してからどちらが大変か」「保健師の資格は取っておきべきか」など、ざっくばらんな質問をしている様子も見られ、本音トークができたのではないかなと思う。



保健師分野分科会 報告書

日 時：令和4年6月18日（土）10：40～12：30

会 場：南棟2階216講義室

参加者：34名

卒業生12名（ゲストスピーカー2名[来学1・オンライン1]、来学9名・オンライン1名）

在校生22名

4年生2名；来学2名
3年生6名；来学3名・オンライン3名
2年生12名；来学6名・オンライン6名
1年生2名；来学2名

教員8名

内 容：

講 話 10：40～11：30

テーマ「私を感じ、考える保健師活動とは—コロナ対策実施前後を通じて—」

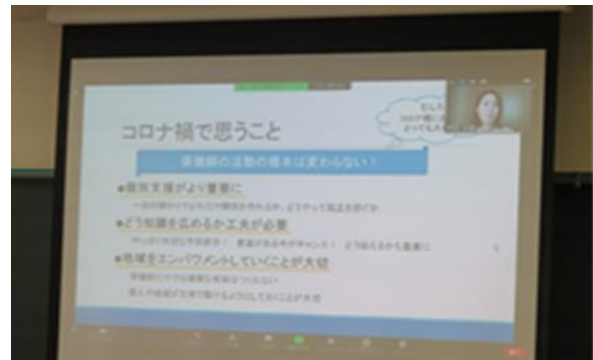
ゲストスピーカー1：東温市市民福祉部健康推進課 野中友貴さん(2017年度卒)

ゲストスピーカー2：鳥取市役所青谷町総合支所市民福祉課 森田彩香さん(2016年度卒)

座談会 11：40～12：20

卒業生紹介 12：20～12：30

保健師分科会は主に二部構成とし、前半は卒業生2名のゲストスピーカーから、現在仕事をされている自治体や組織・業務の概要をお話いただいた後、コロナ対策前後での保健活動についてご紹介いただいた。野中スピーカーさんからは、コロナ対策による住民の外出控えや対面での保健指導の難化があり、健診の実施方法やその結果の伝え方の見直しについてお話があった。森田スピーカーさんからは、コロナ時代を迎えて様々な健康課題の発生があった反面、予防医学の重要性が住民に浸透し始めたことが挙げられ、ピンチをチャンスに変える発想や地域をエンパワメントする保健師の活動の重要性について触れていただいた。



分科会後半では来学者3・オンライン1の計4グループに分かれて、座談会を実施した。在校生からは卒業生に対して、保健師を志望した理由、学業、学生生活や就職活動等について活発に質問があった。卒業生はそれらの質問に対して、自身の経験を踏まえながら、丁寧に受け答えする様子が見え、卒業生がファシリテーターの役割を兼ねながら各グループで活発に交流が図られた。卒業生がワールドカフェ風に途中グループを替わることで、より多くの交



流の機会を持つことができた機会となった。

助産師分野分科会 報告書

日時：令和4年6月18日 10:35～12:30 会場：257 講義室

参加人数：計32名（教員除く）

学部生13名・助産学生11名・卒業生8名

（うち1名は看護学科卒業生、1名講演のみリモート参加）

教員4名

内容：現地参加による分科会

10:35～10:45 木蓮会 助産支部長挨拶

10:45～11:30 講演

<テーマ>「助産師出向システム」で活動した助産師の実践報告

演者：山内秀美さん（松山赤十字病院）、浪花愛さん（鳥取大学医学部附属病院）

11:35～12:30 グループディスカッション（途中メンバー入れ替え）

<テーマ>先輩・後輩との交流会

- ・今後の助産学実習に備えての心身の準備と学習準備
- ・助産師を志望する看護学生への進路相談
- ・本学の助産学専攻科への進路についての相談

現在、勤務助産師の偏在によって「分娩件数が少ないことから介助スキルが身に付かない」「分娩数が多いにもかかわらず、助産師が不足している」など様々な問題が起こっている。このような状況を改善するために日本看護協会は「助産師出向システム」を立ち上げた。これは、一定期間、他院で助産師として勤務し、各々の助産師としてのスキルアップや助産師不足の解消などを目的としており、全国に広まってきている。

今回、勤務助産師で、このシステムを経験した二人の修了生を招き、その経験から学んだことや気づきなど写真を交えて講演していただいた。山内秀美さんは助産師が不足している施設への応援、浪花愛さんは助産師としてのスキルアップを目的に出向した経験についての講演であった。2人の修了生は、改めて助産師を志した時に思い描いていた理想とする妊産褥婦さんへの関わり方を思い起こすこととなり、違った環境下での分娩介助方法について学びを得、快く迎えてくれた助産師の皆様やその他の病院スタッフの皆様、患者の皆様への感謝など、多くの気づきを得ることが出来たようであった。そのような講演で、助産師を夢見る学部学生から、助産師の出向というのは誰でも申し出ることで行くことが出来るのかなどの質問も出されるなど、助産師の活動の幅広さを知る機会となったようでもあった。

そして、先輩方との交流では、実習や専攻科の授業のことなどアドバイスをもらうことで実習や就職のこと、今からの学習準備など目指すべきことを知るきっかけとなり、各自で目標を立てる良い機会となったようであった。グループによれば、就職希望先の先輩と、また、実習先の指導者と顔を見て話をすることで未知への不安が少し解消し、今後の目標を見出すこととなっているようであった。ただ、今年度は在校生が多くを占め、修了した先輩方々の参加が少ない状況にあったのが残念である。次年度こそは、多くの修了生が戻ってきてくれることを期待する。



7



臨床検査技師分野分科会 報告書

日時：令和4年6月18日（土）10：40～12：30

場所：355号、356号、351号（*351号は当日追加）

ボランティア教員：則松、竹内、山田、美間、荒川

参加者：35名

卒業生10名（ゲストスピーカー2名含む）※当日参加2名

在校生25名（1年4名、2年2名、3年15名、4年4名）

リモート参加：卒業生5名、在校生1年生4名

内容：

10：40～10：45 則松学科長挨拶

10：45～11：45 講演

講演1「大学院を卒業後、臨床現場で働く経験を通して感じたこと」

琉球大学病院 玉城真太さん（大学1期生・2007年度卒）

講演2「病院に就職してみてもー病院を選んだ理由と今取り組んでいること」

医療法人 住友別子病院 亀岡日向子さん（大学14期生・2021年度卒）

11：45～12：30 卒業生自己紹介、卒業生と在校生のフリートーク

講演1の玉城真太さんの講演では、現所属の琉球大学病院病理部での仕事の紹介や、どうやって進学先を決めたのか、大学院での研究内容や細胞検査士の資格取得について、更に大学院で学んだことが臨床現場でどのように活かされているか等の話があり、後輩たちに深く学ぶことの大切さについて伝えてもらえる機会となった。



講演2の亀岡日向さんは、1年前の就職活動で大切にしたことや自分に合う就職先選択について後輩たちに伝えたいこと、病院検査部の仕事で現在取り組んでいることについて話があり、在校生にとって就職先を選ぶ際に参考となるような講演であった。

分科会後半では、4グループにわかれ、教員をファシリテーターとし卒業生と在校生の交流を実施した。2名の講演への活発な質疑応答や進路や就職についての情報交換がなされ、予定時間を超えるほど盛会に終わった。

5) 評価と課題

(1) ねらい・成果

昨年度に引き続いて Zoom を用いたオンラインと対面のハイブリッドで開催した。新型コロナウイルス感染症拡大のため、同窓会の総会・会食は実施できなかったが、ハイブリッド形式をとりながら各自が工夫を凝らした催しとなった。

(2) 参加者アンケートの結果

◆ 卒業生・在校生の別

項目	回答数	割合
①卒業生	17	31%
②在校生	38	69%
合計	55	100%

◆ 当日の参加方法

項目	回答数	割合
①現地参加	44	80%
②オンライン参加	11	20%
合計	55	100%

◆ ホームカミングデーの参加のきっかけ (複数回答)

項目	回答数	割合
①STUメール	32	33%
②ホームページ	6	6%
③チラシ・ポスター	22	17%
④案内文書	12	6%
⑤教職員	10	17%
⑥同級生	14	19%
⑦先輩	1	1%
⑧後輩	0	0%
⑨その他	1	1%
合計	98	100%

◆ 参加した会 (複数回答)

項目	回答数	割合
----	-----	----

全体会（挨拶・大学院説明会）	24	
分科会（小計）	55	100%
看護師分野分科会	10	18%
助産師分野分科会	9	16%
保健師分野分科会	17	31%
臨床検査分野分科会	18	33%
参加分科会未記入	1	2%

◆ 全体会（挨拶・大学院説明）の評価

項目	回 答 数	割合
①とても参考になった	14	58%
②参考になった	10	42%
③あまり参考にならなかった	0	0%
④参考にならなかった	0	0%
合計	24	100%

◆ 全体会（挨拶・大学院説明）の感想

- ・大学院について学ぶことができた。自分は大学院に行こうという気ははじめはなかったが、説明を聞いて、臨床に出てから何かしらの疑問や研究したいことができたなら行くのも1つの選択肢だと思うようになった。【在校生】
- ・大学院については全く考えていなかったのですが、今日お話を聞いて興味を持ちました。大学院で学ぶことは自分の成長につながるとわかり、モチベーションも上がると知りました。今後の大学卒業後の進路の一つにも考えたいです。【在校生】
- ・大学院の詳細を知る機会があまりなかったので参考になりました。【在校生】
- ・"大学院について、知らないことを沢山知ることができた。特に、2年間だけでなく、働きながら勉強できるのはいいなと思った。木蓮会も活動内容が知らなかったなので、写真付きで分かりやすかった。【在校生】"
- ・大学院や木蓮会についてどのような活動をしているのかわかった。【在校生】

◆ 分科会の評価

項目	回答数	割合
①とても参考になった	43	78%
②参考になった	12	22%
③あまり参考にならなかった	0	0%
④参考にならなかった	0	0%
合計	55	100%

◆ 分科会の感想

（看護師分科会）

- ・就職や実習に関して疑問に思っていることや不安なことを質問でき、どのようにしてこれ

から取り組んでいけばよいのかについて知ることができ、とても自分のためになった。【在校生】

- ・先輩の話を書くことや直接質問できる機会はとても貴重であった。現地で直接お話を聞いて、質問もできとても有意義な時間になったと思う。【在校生】
- ・卒業生や現役の看護師の方々とお話しする機会がないので、実習や就活の不安についていろいろ聞くことができ、参考になりました。【在校生】
- ・今後の見通しが全く立っておらず、迷っていたところだったので、先輩たちの実体験はとても参考になりました。私はまだ一年生で、先輩方が話されている実習内容などもなんとなくのイメージでしか分かっていなかったのですが、今回のお話からかなり具体的に想像することができました。また、自分の視野を広げることの大切さ、一年生から様々な活動に取り組むことの重要性なども分かりました。これからの勉強や生活に、今日の学びを活かしたいです。【在校生】

(保健師分科会)

- ・同級生や先輩、そして後輩に会えてとても充実した1日でした。改めて医療技術大学で学べてよかったと思える1日でした。ご準備等ありがとうございました。【卒業生】
- ・他市町の保健師や学生、先生方とお話しすることができ、とても充実した時間になりました。ありがとうございました。【卒業生】
- ・他の市町の話が聞けて楽しかった。在校生のためになる話ができたらいいなと思います。【卒業生】
- ・実際に保健師として働いていらっしゃる方から直接お話しすることができて将来このようになりたいと思った。さらに保健師を目指している在校生の先輩のお話しも聞いて自分も勉強を頑張ろうと思った。【在校生】
- ・先輩の話を書くことで、将来について深く考えるきっかけになった。また、先輩と繋がることで、また困った時にも相談したいと思った。分科会で、別れることによって、同じ夢を目指した、同級生は先輩とも仲良くなれて嬉しかった。【在校生】

(助産師分科会)

- ・実際に先輩方にお話を聞くことが出来て良かったです。実習頑張ります。【在校生】
- ・先輩たちがどのように学習を進められていたのか具体的に知ることができてよかった。【在校生】
- ・実際に出向システムを経験して得られたことを聞かことができ、将来のためになった。また、専攻科生や卒業生の話を書くことができ、進学や就職、勉強に対するモチベーションとなった。【在校生】

(臨床検査分科会)

- ・とても楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。【卒業生】
- ・先輩の話により、就職に向けて意識することができました。たくさん話を聞いて良かったです。【在校生】
- ・班に分かれて話をお聞きできたのはよかったのですが、卒業生(特に zoom の方)の方が固定されてしまうので、班は同じで卒業生の方だけ入れ替わるなどして頂けるとありがたいと感じました。【在校生】

◆ ホームカミングデーへの意見や感想、聞きたい講演

- ・看護分野を今回聞いたが保健師分野も聞きたかった。しかし同時刻であったため、より興味のある方にしてもう片方は聞けなかったため、時間帯をずらしてほしかった。【看護師分科会・在校生】

- ・ 県外出身なので県外に就職した方のお話を聞きたかったです。【看護師分科会・在校生】
- ・ 同級生ではなく、先輩方のお話を聞く機会はとても貴重でした。参加してとても良かったです。【看護師分科会・在校生】
- ・ 卒業生だけの交流の時間もあれば、市町や県とのつながりもできやすいなと思いました。【保健師分科会・卒業生】
- ・ 先輩と話す機会が中々ない中、このような機会を作ってくれてありがたかった。実際に働いている先輩の話聞くことでためになることが沢山あった。また来年も参加したいと思った。【保健師分科会・在校生】
- ・ 大学院卒業の方の話が大変参考になりました。今後も大学院を卒業された方のお話をお聞きできると嬉しいです。【臨床検査分科会・在校生】

2. 令和4年度臨床検査実践セミナー（愛臨技学術部・医技大合同研修会）

1) 趣旨または概要

県内の臨床検査技師を対象に、専門知識や技術のスキルアップを目指す。また、本学臨床検査学科学生にも最新の臨床検査について教授する。

2) 実施主体・連携協力機関

共催

愛媛県臨床検査技師会学術部

愛媛県立医療技術大学臨床検査学科

愛媛県立医療技術大学地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

愛媛県臨床検査技師会学術部、愛媛県立医療技術大学臨床検査学科

4) 事業内容

(1) 日 時：令和5年1月29日（日） 14:00～17:20

(2) 場 所：愛媛県医療技術大学 150 教室

(3) 参加者数：愛媛県臨床検査技師会会員 63名、
本学学生 11名、本学教員（非会員）2名 計 76名

(4) 実施者と実施内容

初の試みとして、(一社)愛媛県臨床検査技師会学術部と愛媛県立医療技術大学との合同研修会を共催開催した。今回は、日常検査における学校で学ぶことや教科書に掲載されていることでも実際に活用されていることと、活用されていないことがあるが、臨床に大変役に立っている基本的な知識や技術を中心に「日常臨床検査に役に立つ基本的な知識と技術」をテーマとして各専門の臨床検査技師に講演いただいた。

【講演会】

講演1. 免疫・遺伝子検査部門 森本麻里 氏（愛媛大学医学部附属病院検査部）

講演2. 病理検査部門 門屋孝志 氏（松山赤十字病院検査部）

講演3. 生理機能検査部門 渡邊亮司 氏（済生会今治病院検査部）

5) 評価と課題

当日は、愛媛県臨床検査技師会会員に加え、本学学生の参加もあった。初の試みであったが、参加者は県内で活躍する各専門の臨床検査技師からの講演を熱心に聞き入っていた。県内の臨床検査技師の技術向上のみでなく、臨床検査技師間の交流の場として、大きな意味のある会であった。

また、臨床検査技師を目指す本学学生のモチベーションアップにも効果があると確信した会であった。引き続き、愛媛県臨床検査技師会学術部と連携して来年度も本事業を実施したい。

3. 思春期保健スキルアップ研修会

1) 概要：Zoomによるオンライン研修

(1) <話題提供>

2021年度 中学生の性に関する意識・行動調査結果の概要報告

2022年度版 性教育パッケージの改編内容の紹介

<講演>

子宮頸がん と HPV ワクチンについて

(2) 目的

思春期保健に携わる関係者が、性教育に役立つ最新情報を得ることで資質の向上を図ることができる。また、思春期の子供も達のコミュニケーション力、性の自己決定力を育み、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点に沿って他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりの場とする。

(3) 対象者

思春期保健に関わる医療従事者、小・中・高等学校教諭、養護教諭等

2) 主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

3) プロジェクトメンバー

愛媛県立医療技術大学

中越利佳・越智百枝地域交流センター長・伊藤美香

岸田直樹・河江謙之・徳永祐紀

愛媛県中予保健所健康増進課

4) 事業内容

(1) 日時 令和4年9月3日(土) 13:00~15:00

(2) Zoom 配信場所 愛媛県立医療技術大学 117

(3) アクセス数 77 (1アクセスから複数名で参加されているケースあり)

(参加者概算内訳)

養護教諭：31 保健師：13 助産師：12 看護師：1 生活支援員：1 医師：1

県教育委員会・教育センター：2 教諭：1 元教諭：1 大学教員：5

その他：1 医技大スタッフ：4 不明：4

(4) 実施内容

12:55~ オリエンテーション

13:00~ 開会挨拶 越智百枝地域交流センター長

13:05~ 2021年度 中学生の性に関する意識・行動調査結果の概要報告

愛媛県中予保健所 平田彩乃保健師

13:30~ 2022年度版 性教育パッケージの改編内容の紹介

愛媛県立医療技術大学

豊田ゆかり教授・中越利佳准教授・金澤知典准教授・井上明子講師

14:15~ 休憩

14:20~ 講演「子宮頸がん と HPV ワクチンについて」

つばきウイメンズクリニック 鶴久森 夏世医師

15:25~ 閉会挨拶

愛媛県中予保健所 健康増進課 倉田朋子課長

15:30 閉会

(5) 参加者アンケートの結果

①回答数 45 件

養護教諭 23・教諭 1・保健師 9・助産師 8・その他 4

②研修会の内容について

とても参考になった (78%) 参考になった (22%)

③Web 開催について

よかった (98%) どちらでもない (2%)

④自由記載より抜粋

【Web 開催に対する意見】

- ・ 参集しての開催でなくても新しい知識が得られ、すごく勉強になった。
- ・ 育児中で週末、研修会に外出して参加をするのが難しいので、とても助かった。
- ・ 移動時間の調整の必要がないので参加しやすい。
- ・ 休日の時間を有効に活用でき、また感染の危険もないため参加しやすい。
- ・ オンラインによって、学びの機会が増えて良い。
- ・ 参集の研修会なら参加しなかった。
- ・ 会場に行って他の先生方と情報交換ができるというメリットもあるが、オンライン研修だと手軽に参加できるのでよかった。

【鵜久森先生の講演についての感想】

- ・ HPV ワクチンの必要性について、子宮頸癌の予防という視点にとどまらず、思春期～妊娠期～子育て期に渡り命を繋ぐという母子の健康と健全な一生が保障されるよう今後も継続した活動が必要である。
- ・ とても分かりやすく心に響いた。職業柄、ワクチン接種に悩んでいる母親からも相談を受けることがあるが、今後自信をもって答えられる。
- ・ 子宮頸がん検診やワクチンについての効果・副反応について、具体的なお話をしていただきとても分かりやすく、ワクチンの疑問も解消された。
- ・ 子宮頸がん HPV ワクチンについて理解を深めることができた。もう少しじっくり見たいところがあったので、オンデマンド配信で見直してさらに理解を深めたい。
- ・ 学校での教育が大事とのお話もあり、愛媛県教育委員会から系統的に学んでいける性教育について、睡眠資料集のような冊子を出していただけると、どの市町でも同じ歩調で行われていくと思う。
- ・ ワクチンについてはどんなものでも多少の副反応は覚悟しており、受けないことによる不利益が大きいことを、信頼できるエビデンスと共にお伝えいただいた。今日の学びを現場にも還元していこうと思う。

【研修会についての感想】

- ・ 愛媛県の性教育の必要性とその背景について具体的に知る事が出来た。SNS の利便性の裏にある性被害・いじめの現状がある事に対し、安全な SNS の利用方法についても性教育に取り入れていかなくてはならない。
- ・ 医療技術大学の先生方、素晴らしい教材の開発に熱心に取り組まれ、ざっと流しただけでも生徒の興味・関心に応えているものだと思った。
- ・ 資料や講演も後から振り返ることができるためありがたい。
- ・ 松山市は中核市なので、中予保健所の管轄外だからなのだと思うが、同じ中予なのに調査対象に松山市が入っていないことにちょっと違和感を感じた。松山市の保健所との連携等も図れたら…と思った。
- ・ 内容がすごく興味深いので事前に資料があると理解がもっと深まったと思う。
- ・ 小中学校の性に関する指導教材や横断的なデータが、ここ愛媛にある、というのはとても素晴らしいことだと思う。人工妊娠中絶の減少もその成果の一つだと思う。本当は、この流れを高等学校においても実施できれば・・・という課題を同時に感じた。

- ・学校任せではなく、質の高い性教育を提供できる外部講師としての地域の人材育成、学校と其人材を結びつけるネットワークづくりも、この思春期保健スキルアップ研修会に期待する。
- ・教材をぜひ活用させていただき、子どもたちのために尽力していきたい。
- ・後日のオンデマンド配信をしていただけるのが良い。

【思春期の子どもたちに関して、今までと違ってきたと感じることについて】

- ・中学生でも月経困難症で服薬している生徒が増えてきている。
- ・SNS で他校の生徒や顔も知らない大人とつながり交際に発展する。自校の同じクラスの相手でも告白するのも別れるのも SNS 上。
- ・小・中学生女子にとって、TikTok からの情報は影響力があると感じている。ネット上での友達を持つ子も増えている。また、小さいころから愛着障害の傾向にある子も増えている。
- ・LGBTQ について、学校教育で取り上げていく必要性を今までより強く感じている。
- ・小学校高学年では LINE でのトラブル、低学年でもオンラインゲームのトラブルが増えてきている。
- ・高校進学の見込みが、通信制や夜間、サテライトなど多様化している。
- ・今年度、異性間よりも同性による性被害の相談が増えている。
- ・自分の容姿を気にする生徒が増え、痩せ願望、日焼けを嫌うこと、男女とも腕や足の毛を気にするようになってきた。インスタや TikTok など加工された姿を理想としているように思う。
- ・情報を得る手段がインターネットや SNS に変わってきた。
- ・SNS で出会った相手との交際やトラブルなどを生徒から多く聞くようになった。

【今後、受けてみたい研修内容と希望講師】

- ・愛媛県の思春期教育の現状、課題
- ・自殺予防に関する教育
- ・摂食障害や精神疾患
- ・男子の性教育
- ・LGBTQ について
- ・生命の安全教育について
- ・災害や死別、親の離婚などの喪失体験をした子どものケア
- ・性の多様性や発達段階における性教育
- ・知的障害や発達障害のある生徒への性教育について
- ・希望講師：琴天音さん・山田真理子先生・内海裕美先生・高橋幸子先生

5) 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は平成 25 年度から継続開催し、今年で第 10 回目の開催となった。今年度の研修もコロナ感染が収束せず Web 開催としたが、アンケート結果では、感染対策としてはもちろん、移動時間を気にせず時間を有効活用できるため、有用な研修方法であるとの意見が多かった。コロナ禍に関わらず、今後も研修方法の一つとして検討できればと考える。

中予保健所による「中学生の性に関する意識・行動調査結果」や本学教員による「性教育パッケージの改編内容」の話題提供については、参加者にとって中学生の実態把握や性教育指導を再認識する機会となったようである。性教育パッケージは、これまでにも中学生を対象とした意識・行動調査の横断的データに基づいて改編を行ってきた経緯がある。今回も、SNS 上のトラブルといった近年の思春期の子どもたちの動向や、性に関してどのように子どもたちと向き合っていけばいいのか悩んでいる保護者にも対応したものとなっている。後日、研修会の参加者に対し、改編した性教育パッケージを閲覧できる URL の案内を予定しており、多くの方に活用していただくことを望む。また、この思春期保健

スキルアップ研修会において、質の高い性教育を提供できる人材育成や多職種・多機関を結びつけるネットワークづくりを期待するとの意見もあり、継続開催している本研修会としての役目を改めて考えていきたい。

今年度の講演は、2022年4月からHPVワクチンのキャッチアップ接種が開始されたこともあり、子宮頸がんやHPVワクチンの正しい知識についての学びを求める声が多かった。そこで、つばきウイメンズクリニック 鵜久森夏世医師に講演を依頼した。今回の講演テーマについては、養護教諭、保健師、助産師といった職業的な面だけでなく、実際のワクチン対象者の母親としても大きな関心を寄せていたことがアンケートからも読み取れた。講演はとても理解しやすかったとの意見が大半であり、後日オンデマンド配信があることも参加者にとっては良いとの意見が多くあった。これまでの対面形式の講演では、後日のオンデマンド配信はほとんど見られなかったが、これもWeb開催ならではのメリットではないかと思う。

研修会全体を通しては、申し込み時に事前質問を募集し、研修中にもチャットでの質問を適宜受け、発表者や講師に答えていただくことで、一方的な発信は避けることができたと思う。

今回、申し込み時のZoomミーティングURLが申込者に届いていない事例があった。申込者にはフォームメーカーからのメールが受け取れる設定を依頼していたが、研修当日にその状況がわかり対応が遅くなった。今回の研修では、研修終了後に2021年度中学生の性に関する意識・行動調査結果の概要報告資料、2022年度版性教育パッケージ閲覧URL、講演のオンデマンド配信URLを研修参加申込者へ送付することとしているが、研修後の参加者へのフィードバックや情報提供のスムーズな実施は、今後の課題であると考えている。

研修内容の希望にも多くの意見があったが、今後もその時に必要なタイムリーなテーマを選択することを意識しながら、今後の思春期スキルアップ研修会を開催していきたい。

4. 母子のための地域包括ケアシステム推進研修会

1) 概要

(1) テーマ

助産師の地域活動実践に向けての経緯と現状

(2) 目的

昨年度は、愛媛県内3ヶ所（東予・中予・南予）の母子支援に焦点を当て、同地域で連携を取っている保健師、助産師双方からそれぞれの活動について話題提供をしていただいた。それを踏まえて、今年度は他県の方から話題提供をしていただくことで、愛媛県内の地域活動、地域連携について改めて考える機会にすることを目的とした。

(3) 対象者

保健師、助産師、看護師他、母子保健に関わる医療関係者

2) 主体

愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

- ・愛媛県立医療技術大学 地域交流センター
越智センター長・伊藤美香・河江謙之・岸田直樹
- ・母性看護学講座・助産学専攻科教員
中越利佳・今村朋子・井上明子・瀧本千紗・山下玲子

4) 事業内容

(1) 日時 令和5年2月18日(土) 13:30～15:30

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟1階 117教室 (Zoom配信)

(3) 参加者 Zoomアクセス数 41アクセス (1アクセスにて複数名視聴ケースあり)

- ・参加者職種内訳：保健師・助産師・看護師・教員
- ・医技大スタッフ：4名

(4) 実施内容

- ・オリエンテーション
- ・「助産師の地域活動実践に向けての経緯と現状」について

【話題提供1】

和歌山県紀の川市役所福祉部こども課
母子保健班 副班長 水内 久美 保健師

【話題提供2】

紀の川市子育て世代包括支援センター「はぐくみサポート紀の川」
中西 美好 助産師

- ・グループワーク：テーマ「愛媛県における助産師の地域活動について」
- ・まとめ：発表・質疑応答

5) 参加者アンケートの結果（アンケート回答者23名）

(1) 職種について

保健師6名(26%)・助産師14名(61%)・教員3名(13%)

(2) 研修内容について

かなり満足9名(39%)・まあまあ満足12名(52%)・普通2名(9%)

(3) 研修会の開催日程について

土曜日で参加しやすかった14名(61%)・日曜日の方が参加しやすい1名(4%)・平日の方が参加しやすい6名(26%)・その他2名(9%)

その他：「多くの人の参加を考えると土日がいい」「偶然休みだったことで参加でき

たが、勤務希望が可能なお知らせであると参加しやすい」

(4) 研修会の時間について

ちょうどよい 22 名 (96%) ・その他 1 名 (4%)

その他の理由：業務の関係で途中入室となったため。

(5) 助産師の地域活動についての意見・感想

- ・開業助産師の情報があまり知られていないと思う。困ったときに相談できる場所として、もっと広く知られたらいいと思う。
- ・地域のニーズが高まっているのに即座に対応できるシステムが追いついていないように感じる。行政との繋がりも積極的に持っていきたいし、地域の助産師で意見交換してもっと充実した母子支援が行えるようになると良いと感じた。
- ・病院で就職していても地域でも活動できるシステムを作してほしい。
- ・保健師として活動しているが、妊娠期や新生児期は特に助産師の知識やスキルが地域においても求められるところだと思う。
- ・何か困った時に気軽に相談できる場所・関係性を作ることの大切さを改めて感じた。管内地域でもそんな体制が作れるよう話し合っていきたいと思う。
- ・個人で活動するには限界もあるし、地域ごとに助産師会ができれば委託事業が増えるのでは…と感じた。
- ・地域差があって、なかなか助産師を必要としているところばかりでないことがよくわかった。
- ・一個人の助産師と地域がどうすればつながれるのか、工夫できる事を知りたい。
- ・横のつながりを強くするためには行政内に助産師が配置され、施設や地域の助産師との連携をしていくのが必要ではと感じた。
- ・産後ケアの利用が、出産件数に対して少ないように感じるので、必要な方へ必要なタイミングで提供出来る受け皿を作れたらと思う。
- ・病院からの情報をどこまで継続させて繋いでいけば、次の妊娠や子育てをサポート出来るか課題だが、子育て包括支援センターなどに助産師がいれば、産後や子育てに繋がる機会が増えて、子供を通じてサポートできて、次につながれると感じた。

(6) 研修会の企画・運営に対する意見・感想

- ・県内、県外での取り組みについて知ることができ勉強になった。
- ・オンラインは参加しやすいが、時間があれば実際に会って聞いてみたい。そうすれば情報がより聞ける。

6) 評価と課題

今年度は、「助産師の地域活動実践に向けての経緯と現状」をテーマとし、和歌山県紀の川市の取り組みを保健師、助産師双方から話題提供していただいた。今回は、助産師活動がテーマということもあり、助産師の参加者が多かった。また、研修内容、開催日程、開催時間はおおむね良いとの意見であった。

話題提供後には、紀の川市の取り組みを参考に「助産師の地域活動について」グループワークを行った。そして、助産師の地域活動や自治体との連携などに関して愛媛県内の現状と県外との違いを認識することができたとともに、それらは今後意識すべき課題であると感じた。

愛媛県内では、開業助産師などの地域で活動する助産師よりも施設での勤務助産師の方が多く、すぐに助産師の地域活動を活発化することは難しいと思われるが、勤務助産師が地域で活動できるようなシステムを作してほしいという意見もあった。今後、関連機関で協力し、助産師の地域活動活性化のための取り組みが実現できればと考える。

The slide displays a flowchart on the left side, detailing organizational structure or processes. On the right side, there is a list of names:

- 伊藤 美香
- 伊藤 美香
- 栗林忠洋子 監修
- 栗林忠洋子

The slide is titled "今後の母子支援への展望" (Outlook for Future Mother and Child Support). The main content area is mostly blank, with some faint text visible at the bottom. On the right side, there is a list of names and a video feed:

- 清水...
- 愛媛県立医歯技...
- 愛媛県立医歯技...
- 紀の川市 水内
- 紀の川市 水内
- 伊藤 美香
- 紀の川市 中西

5. 愛媛県看護教員継続教育研修事業

目的

愛媛県内の看護職養成教育機関において看護職の要請に携わる教員に対する FD とすると共に、県内看護学教員の交流を通して、情報交換や連携を目的として、教育の質向上を目的とした。

●研修会 I

1) 概要

(1) テーマ

アイデア勝負！オンリーワンのシミュレーション教育

(2) 目的

シミュレーション教育の基礎から実践への活用までについて学ぶ。物がなくても、設備が充実していなくても、看護技術演習が充実する方法考えることができる。

(3) 対象者

愛媛県内の看護職養成教育機関において看護職の要請に携わる教員

2) 主体

愛媛県・愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

- ・愛媛県立医療技術大学 地域交流センター
越智百枝 野本百合子 河江謙之 岸田直樹
- ・看護学科ワーキンググループ
北川恵 藤原紀世子 谷本淳子

4) 事業内容

(1) 日時 令和4年11月26日(土) 10:00~16:30

令和4年11月27日(日) 9:00~12:00

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟1階116教室

ZOOMによるハイブリット開催

(3) 参加者 11月26日参加:26人(現地:14名、ZOOM:11名)

11月27日参加:17人(現地:11名、ZOOM:6名)

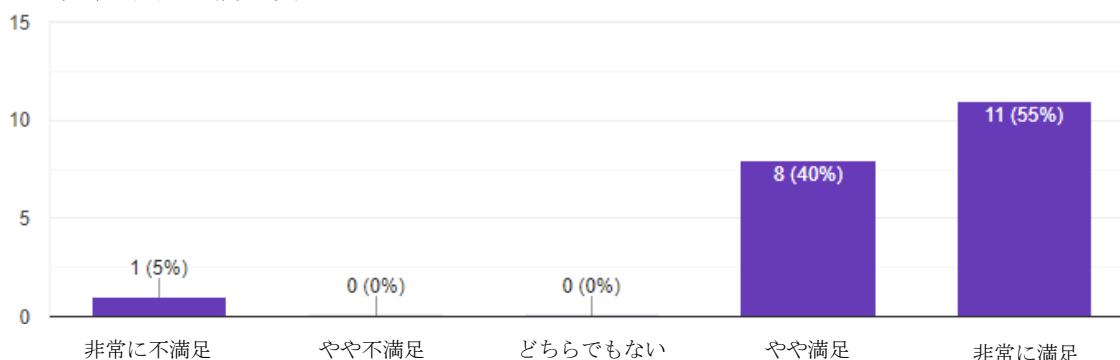
(4) 実施内容

講師 折尾愛真高等学校 看護科・看護専攻科 高橋聖子 先生
教育講演「アイデア勝負！オンリーワンのシミュレーション教育」

1. シミュレーション教育の基礎知識
2. シミュレーション授業の事例紹介
3. アイデア勝負！手作り教材
4. シミュレーション授業のデザインを描く
5. シミュレーション授業のデザインを描く (グループワーク)

5) 参加者アンケートの結果 (回答数 20名)

(1) 研修の満足度について



・高橋先生の実際に行っている授業がどのようなものか、具体的なお話と写真などの映像で、すごくわかりやすかった。ただ、一つの授業科目の中で、どれだけのシミュレーションを取り入れているのか、どういうタイミングで組み込んでいるのか、なども入れていただけるとよりわかりやすかった。(6件)

・具体的なイメージがわくような授業で、こんな事真似してやってみたいな、あんなこともやってみたいなという、ワクワクが膨らんだ。(3件)

・シミュレーションに対してぼんやりとした課題だったが、シナリオを作成する時の焦点化がわかった。(5件)

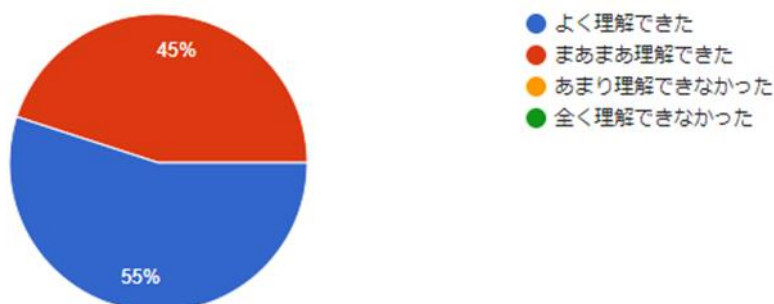
・シミュレーション教育は準備に時間がかかり、ハードルが高いと思っていたが、講義やワークを通して、シミュレーション計画立案の思考が学べた(3件)

・高橋先生の実際に実践されている具体的な内容や工夫を学べたことと、先生の看護への情熱を感じた。

・先生と学生さん達との距離の近さ、先生の愛情と熱意を持った教育がよく伝わった。

・どのような目標設定が良いのか。学生さんがどのように理解しているのか他、学びが多かった。

(2) 研修の理解度について



・文章だけでなく、写真や動画で視覚教材が多かった。また、ワークがあり、具体的なイメージができた(6件)。

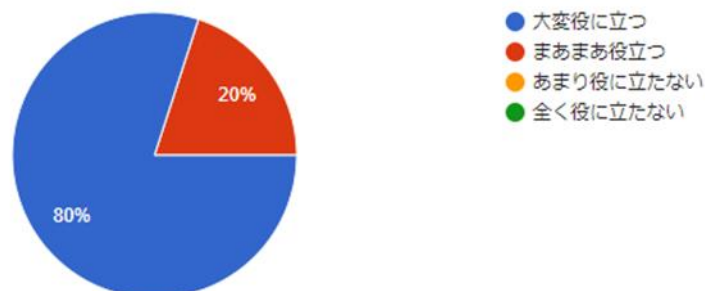
・先生が講義や演習の時に身近にある事例で簡潔な言葉で説明されていた。

・2日目のグループワークでなかなか作り上げることが難しいのを実感した。盛り込み過ぎの演習を実感することはできた。

・目的、目標の枠がしっかりしていないと、方法がブレるということがよくわかった。

・シミュレーションの目的、目標、事例などの具体的な設定や考え方が理解できた。

(3) 学生への教育に役立つかについて



・実習の受け入れが難しい中、この教育は有意義と思う。

・学生に今回の内容をフィードバックしたい。

- ・現在実習中である。実習での経験は、何者にも勝る貴重な教育の場なので、学生と患者さんの場面を通しての気づきを促す発問など、意図してできるなど考えている。今後授業の中でも、目的、目標を持って、シミュレーションを取り入れてみたい。
- ・実際にワークを行い、シミュレーションの取り入れ方が理解できた
- ・シミュレーションの事例の看護場面の精選や学生への発問の方法や共感が理解できたので是非取り入れたい。
- ・具体的な案が多かったことや、最後に授業案をグループで話をしたことで授業を展開することは簡単ではないが押さえるべきポイントを知れた。
- ・一回の研修では、シミュレーション教育の内容が把握しきれない。
- ・早速役立てたいが、どこまで実践できるかは教員の力量を問われる。試行錯誤していきたい。

(4) 研修の企画・運営に対する意見・感想

- ・先生の熱量を感じられたのは現地参加だからこそかと思った。
- ・他校の先生方との情報交換の場にもなり、他愛ない会話は刺激になって、「もう少し頑張ってみようか」という気持ちになった (2件)。
- ・現地に多くの人間が集まるのは、配慮することが多く準備が大変だったと思う。
- ・時間配分も丁度良かった。司会や会場準備も的確で、研修を受けやすかった。
- ・ワークが個人、グループとあったので、自分の考えをしっかりとまとめる機会ができた。
- ・参加をあきらめていたが、オンラインで参加できてよかった。
- ・研修で2日取られると休みがなくなる。休みがないのは研修に参加することを躊躇してしまう。

6) 評価と課題

視聴覚教材を多く用いての講義やグループワークを通じて、シミュレーション教育の基礎から実践について学ぶことができた。アンケート結果からも満足度・理解度も高く、学生への教育にも役立つという回答が多かった。また、ハイブリット形式での開催であったため、対面で参加した教員は、他校の先生方との情報交換の場や刺激になって、教員のモチベーション向上に繋がったと伺える。しかしながら、ハイブリッド開催は、メリットがある一方で、運営にあたって、会場とオンラインの参加者双方に配慮した円滑な進行に向けて、会場用とオンライン用に、別々の運営マニュアルが必要になることや、ネットワークトラブルの発生に備えて、休日であるにもかかわらず、事務局職員にも待機してもらう必要があることなど、負担が増える状況にあった。そのため、ハイブリッド対応とする場合には、運営人数の増員、トラブル発生時への対応システムの構築が必要となる。

「シミュレーション教育」というテーマについては、今回の1回限りの研修では、内容を把握できにくい、2日間の研修では、休みがなくなる等の意見もあり、継続的なシリーズとしての開催も視野に入れて検討する必要がある。





●研修会Ⅱ

1) 概要

(1) テーマ

ファシリテーション研修～話し合いの場・カンファレンスを円滑に進める技術～

(2) 目的

ファシリテーションスキルを学ぶことで話し合い・カンファレンスを円滑に進めることができるようになる。

(3) 対象者

愛媛県内の看護職養成教育機関において看護職の要請に携わる教員

2) 主体

愛媛県・愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

・愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

越智百枝 野本百合子 河江謙之 岸田直樹

・看護学科ワーキンググループ

徳永なみじ 香川里美 森敬子 高橋博子 長尾奈美

4) 事業内容

(1) 日時 令和4年12月10日(土) 10:00～15:00

(2) 場所 ZOOMによるオンライン開催

(3) 参加者 14名

(4) 実施内容

講師：野口和裕氏（有限会社NTX）

・導入：ファシリテーションとは

・場作りのスキル

・対人関係のスキル

・行動計画作成

・まとめ

講義により基礎的知識に関する講義の後、参加者の感想や気づいたこと、これまでの経験等を共有・ディスカッションする時間を挟みながら進行された。講師のこれまでの研修会で寄せられた疑問や意見を紹介しながら、看護職がファシリテーション力を発揮できる場面や教育での応用、会議での活かし方等について具体的な事例が示され、基礎的知識と実践が結びつけやすい研修構成であった。看護学分野に直接関係するテーマではなかったが、職場での会議や日頃のコミュニケーション、実習カンファレンスや講義中のグループ

ワークに活用できる有用な内容であった。

5) アンケートの結果 (回答数 9 名)

(1) 研修の満足度について

全員が満足したと回答していた。

(2) 研修が役立つかについて

全員が役立つ部分があったと回答していた。

(3) 研修での学び

- ・ファシリテーターはプロセスに目を向けることと、論点を明確にすること。
- ・議論について、十分な準備をすることなく開始していたが、基本の進め方に沿って運営していく事が重要である。
- ・ファシリテーターとは、学生指導に活かすという視点でしか考えることができていなかったが、改めて、職場での人間関係、学生との日々のやりとりから個人を知り、観察すること、疑問を持つことの大切さを実感した。そして論点を明確にすること、意見を出し合う場作りの大切さを痛感した。
- ・ファシリテーターは誘導するのではなく中立するような役割であること。
- ・会議の運び方自体を振り返るという発想を持ったことがなかったので、今までにない学びとなった。
- ・会議を行う上で大切な、論点を明確にすることや準備を行うこと、メンバーへの声かけの仕方
- ・会議のプロセスで、発散の段階で評価をしてはいけない。意見は、主張だけでなく理由も合わせて伝えなければならない。時間管理と事前準備が重要である。
- ・ファシリテーターは中立の立場
- ・自分の意見は、主張と理由がセットであるということ。理由を意識していなかったことに気づいた。

(4) 研修の企画・運営に対する意見・感想

参加案内の時期、開催時期、研修会の時間、運営について、それぞれ「適切だった」、もしくは「ほぼ適切だった」と回答していた。

- ・あつという間の時間で、他の施設の先生方との交流も、もて、刺激を受け、学習できた。
- ・しっかりと話し合いの場を設けていたので満足感があつた。
- ・オンラインだったが、グループワークも問題なく進んでいた。丸一日の研修だったが時間がとても速かつた。
- ・コーチングスキルとして、方法論を学びたい。
- ・グループワーク形式だったので参加のしがいがあつた。とても有意義な研修だった。

6) 評価と課題

全体を通じて、講師の穏やかな口調と丁寧な説明により、内容の理解が促進されるとともに、日頃会うことができない参加者との交流や悩みの共有の機会となり、アンケート結果からも充実した研修会であったことが伺える。

今回は、看護学分野に直接関係するテーマではなかったが、職場での会議や日頃のコミュニケーション、実習カンファレンスや講義中のグループワークに活用できる有用な内容であった。今後の研修テーマの選定にあたっては、看護に隣接する分野に広げて検討することも可能と考える。

なお、研修会への参加促進には、研修 I との間に 2 か月以上の間隔をあけることが望ましい。

6. 令和4年度えひめ高校生生体機能研究プログラム

解剖生理コース（大脳皮質の機能局在）
微生物学コース（目に見えない生き物の世界）

1) 趣旨または概要

生きた動物を用いた生体機能に関する実験は、生命化学分野や医療系を志している高校生にとって興味が高いものであるにもかかわらず、現在の高校生の教育課程において、そのことを実施することは不可能に近い状態である。今年度は従来の生体を使用する実験を行う解剖生理コースに加え、社会の感染症に対する関心の増加に合わせて細菌等を使用する「微生物学コース」を開講した。

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

解剖生理コース 岡村法宜、濱智子、児玉桐梧（大学院生）
微生物コース 美間健彦、藤井萌

4) 事業

(1) 日時

令和4年10月22・23日（土・日） 10:00～16:00

(2) 場所

講義：356 講義室
実習：460 医用工学実習室（解剖生理コース）
556 微生物実習室（微生物コース）

(3) 対象者と参加者数

県内高等学校生徒 17名
県内高等学校教員 2名

(4) 実施者と実施内容

担当者 解剖生理コース 岡村法宜、濱智子、児玉桐梧（大学院生）
微生物コース 美間健彦、藤井萌

10/22（土） プログラム1日目

10:00～10:15 受付（北棟エントランス・検温等）

10:15～10:30 開会式（356 教室）

開会の挨拶

プログラム参加中の注意

10:40～12:00 講義

解剖生理コース（356 教室）

「動物実験を行うために必要な教育訓練」

「中枢神経の解剖生理」

微生物コース（556 微生物学実習室）

「目に見えない生き物（微生物）」

12:00～13:00 昼食休憩（356 教室・学祭見学）

13:00～16:00 実習 1
解剖生理コース (460 医用工学実習室)
「ラットの解剖」
微生物コース (556 微生物学実習室)
「ヒトの体に住む細菌」
16:00 1日目終了 解散

10/23 (日) プログラム 2 日目

10:00～10:15 受付 (北棟エントランス・検温等)
10:15～12:15 実習 2
解剖生理コース (460 医用工学実習室・458 臨床生理実習室)
「左右大脳半球の運動支配に関する実験 (ラット)」
微生物コース (556 微生物学実習室)
「食品中の細菌」
12:15～13:00 昼食休憩 (356 教室)
13:00～15:00 実習 3
解剖生理コース (460 医用工学実習室・458 臨床生理実習室)
「視野と一次視覚野の活動に関する実験 (ヒト)」
微生物コース (556 微生物学実習室)
「くすりが効かない細菌」
15:00～15:15 休憩
15:15～15:45 講義 (実験結果の説明)
解剖生理コース (460 医用工学実習室)
微生物コース (556 微生物学実習室)
15:45～16:00 閉会式
解剖生理コース (実験動物鎮魂の碑前)
微生物コース (556 微生物学実習室)
16:00 2日目終了 解散

5) 実施後アンケート結果 (17名中15名回答)

(1) 講座の難易度について選択して下さい。

- | | |
|----------|-----|
| ①簡単だった | 0人 |
| ②やや簡単だった | 0人 |
| ③ふつう | 2人 |
| ④やや難しかった | 13人 |
| ⑤難しかった | 0人 |

(2) このような講座が開催される場合、また受講したいと思いますか。

- | | |
|---------------|-----|
| ①ぜひ、受講したい | 12人 |
| ②時間が合えば受講したい | 3人 |
| ③特に受講したとは思わない | 0人 |
| ④受講したくない | 0人 |

(3) あなたが勉強する上で、本講座を受講した経験は、役に立ったでしょうか。

- | | |
|-------------|-----|
| ①非常に役だった | 13人 |
| ②やや役だった | 2人 |
| ③ふつう | 0人 |
| ④あまり役立たなかった | 0人 |
| ⑤役立たなかった | 0人 |

(4) 今後、開講して欲しいテーマを教えてください。

- ・骨格の解剖
- ・自身の血液を調べる
- ・がんについて
- ・アレルギーについて
- ・筋肉について
- ・睡眠について

(5) 自由記載

- ・私は、進路は生物に進もうと思っていたながらも、動物や魚の内臓を見るのが苦手で植物や細菌系を扱いたいと思って逃げていました。しかし、もしかすると動物系の道も面白いと感じるかもしれないと思い、今回解剖コースを受講させていただきました。実際にラットを解剖してみると、もちろんラットの体内の仕組みを知ることができましたが、同時に命の軽さ（弱さ）と重さ（尊さ）を知ることができ、私の環境に対する見方も変わりました。ますます大学で生物を専攻したいと思えることができ、有意義な2日間を過ごせました。ありがとうございました。
- ・いろいろな細菌について知ることができました。もっと沢山の種類の細菌も見てみたいと思いました。
- ・実際に臨床検査技師がやっていることを体験できて興味深かったです。私も臨床検査学科に行きたいと思っているので、もっと調べていきたいです。
- ・今回、受講してとても勉強になりました。応募する際にラットの解剖とあったのでそれに興味本位で応募してみましたが、受講して想像以上に学ぶことができました。ラットを解剖するにあたって、手先の器用さも必要だと感じました。実際に解剖することで理解しやすく、先生の説明でもっと理解できたと思います。脳波を測定したときの図の読み方も知れて、自分と他の子の視野の違いなども知ることで勉強になりました。受講してとても良かったと思えました。ありがとうございました。
- ・昨年のオープンキャンパスの際に、高校生生体機能プログラムを実施しているのを見かけました。臨床検査学科希望の学生が参加していると思っていたのですが、対象者が愛媛県内の高等学校生徒だと知り参加したいと思っていました。今年度も実施することを先生から聞き、今回初めて参加しました。初めてのことばかりで、戸惑いはありましたが講義や実験を通して脳の仕組みをより深く知ることができました。動物実験を行う際には様々なことに注意することはもちろん、動物の苦痛を少なくするために多くの配慮がされていることを初めて知りました。正直、最初はラットを目にしたとき抵抗がありました。それでも目を背けることなく解剖していくことで、臓器の働きを実際に自分の目で見て確かめることができました。ヒトと比較することで、生きていくうえで大切な器官や脳の役割、占めている範囲が違うことも初めて知りました。このプログラムを受講してから、生物科目への関心が高まり、今まで以上に熱心に取り組むことができている。EPU festivalでは、楽しんでいる学生さんの姿を通して貴学での生活を知ることができ、私もここで勉強したいという気持ちがより強くなりました。この度は貴重な時間を本当にありがとうございました。今回の経験を今後の生活に活かし、夢に向かって頑張ります。
- ・細菌といえば悪いイメージが多かったですが、一部の細菌だけであることを知り、ガラリと印象が変わりました。身近である食品や、手にいる細菌などを見てみるこ

とは普段過ごしていても出来ないことなので、今回参加させていただいたことを光栄に感じました。また、臨床検査技師が実際に行っている検査方法も体験させていただき、改めて正確さが必要である職業であるとわかりました。色々な細菌を観察して、仲間である細菌同士を発見したりすることはとても面白かったです。私はビフィズス菌が好きになりました。なかなか見ることの出来ないレアな細菌であり、また、形が可愛いなと感じたからです。このように好きな細菌を見つけることも出来る微生物学に興味を持つことが出来ました。学生祭にも参加させていただき、大学生の方々は感染対策もしつつ楽しんでいるのを見てすごくいいなと感じるとともに、私たち高校生もビンゴ大会など楽しむことが出来ました。本当にありがとうございました。

- ・ 今回の講座を受けて、自分の知っている言葉も出てきました。また、自分の知らない言葉もたくさん出てきて、一緒に講座を受けていた友達に聞いてみたりして理解するなどいろんな言葉を知り、たくさんの知識を学びました。解剖をする授業は、これからもあまりやることはないような内容でとても貴重な体験ができました。教科書に書かれていることではわからないようなことも知れてよかったです。二日間ありがとうございました。
- ・ 今回参加してみて、普段の学校の授業では体験できないことをさせていただいたので、生物により興味がわきました。それと同時に、命の大切さも重く感じました。1日目のラットの解剖では、人と比べてみての違いや、教科書に載っていてもよく理解できていなかったところが実際に見てわかり、特に驚いたところは、心臓の構造です。教科書に載っていたような感じかなと思っていたので実際に見ることができ本当に貴重な経験ができました。2日目の大脳皮質の実験では小さい頭でもすこしずつただけで、動く筋肉が違ったり、ラットでも上肢のほうが下肢より脳の支配領域が広がったりと発見が多かったです。ヒト視覚誘発電位では、人によって動く脳の場所が違うなど体の中もおもしろいことだらけだなと思いました。大学見学では、大学院の方に詳しく教えていただきより大学で学べることの多さを実感しました。この二日間を通して、普段の授業ではできない発展的なことができ本当に貴重な体験をありがとうございました。今後の授業でも学んだことを生かして勉強に励んでいきたいと思います。お忙しい中二日間ありがとうございました。
- ・ 今回の講座では、微生物について私が思っていたイメージが変わったのがとても大きかったです。微生物といえば、あまり良いイメージを持っていなかったのですが、講座で講師の先生が分かりやすく丁寧に教えてくださったので微生物について新たな知識と共にイメージも変わりました。実習をすることで自分なりに理解することも出来ました。貴重な体験が出来たと思っています。ありがとうございました！！
- ・ 高校生では体験できないことを体験させていただける場合は、大変貴重でした。ありがとうございました。動物を用いて実験することの意義を学ぶことができました。私は物理選択のため、正直なところ習っていないものがあつたので、少し難しく感じましたが、とても有意義な時間を過ごせたと思っています。本当にありがとうございました。
- ・ 学校では中々体験できない解剖実習や脳波の実験を行い、大脳皮質の機能について体験することができて嬉しかったです。教科書や図鑑で見ただけでは理解しにくい部分だったので、学ぶことができて良かったです。特に人間とラット(草食動物)の

盲腸の機能や大きさの違いが大きくて驚きました。このような貴重な実習を計画してくださった先生方と実験動物の命に感謝申し上げます。ありがとうございました。

- ・高校には無い大学ならではの貴重な体験ができて良かったです。生物に関するいろいろなことが学べたので、自分の進路決めに役立てたいです。私にとってとても有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・ラットとヒトで相対的に大きさが異なる臓器やその理由などを細かく教えて頂けて分かりやすかったです。教科書などで図を見るだけでは分からない器官の特徴も実際に見て感じることができ、普段できないいい経験が出来ました。また、動物実験に関する知識も深まりました。動物実験は常に賛否があるべきだという言葉がとても印象に残りました。私は医学部に進みたいと考えているのですが、入学する前に倫理をしっかりと学ぶことが出来てよかったです。2日目の実習では自分たちで実験する箇所を決められるのがよかったですと思いました。脳波の実験でも理論通りにならない理由などの解説も豊富で理解が深まりました。

6) 評価と課題

今年度は、ヒトを対象とした実験と動物実験によって、生体機能を探求する解剖生理コースに加え、臨床検査の手法を取り入れ、身近な細菌を使用した微生物コースを実施した。感染症に対する社会的なニーズの高まりも相まって、新たな微生物コースは、受講者である高校生からの評価も非常に高かった。また、解剖生理コースもラットの解剖に加え、ヒトや生きた動物の脳機能を探求する講座は実施後アンケートの事由記載内容からもうかがえるように非常に好評であった。一方で、コロナ禍で実施された今回の高校生生体機能研究プログラムは、その開催・運営に多大な労力と準備を要した。県内のコロナ感染者数の推移を観察し、第7波と第8波の狭間に本講座を実施したため、今年度は、従来実施してきた実験終了後の発表会を省略した。次年度は、解剖生理コースと微生物コースによる合同研究発表会を開催し、両コース参加者同士で活発な討論ができるように、本講座を夏休み期間に実施する予定である。



7. ひろた子どもあそび広場「科学体験教室」

1) 趣旨または概要

本年度は毎年開催されている「サタデースマイル in ひろた」のコロナ禍対応バージョンとして行われた『ひろた子どもあそび広場』の中の企画のひとつとして科学体験教室を開催するものである。対象は、山村留学センターの小学生・保育園児、および、砥部町の小学生・保育園児と例年より募集範囲を拡大して行われた。科学の面白さや身の回りにある科学を実感してもらう企画で、夏季（7/16）と冬季の2回開催する予定であったが、第2回はコロナ禍のため順延を繰り返したが、最終的に中止となった。

2) 実施主体・連携協力機関

砥部町ひろた交流センター

3) プロジェクトメンバー

佐川 輝高（愛媛県立医療技術大学）

亀松 貴浩（ひろた交流センター）

4) 事業

(1) 日時

第1回 令和4年7月16日（土）9：30～11：30

第2回 令和5年2月15日（水）中止決定

（当初計画では令和4年9月4日日曜日開催で参加人数希望人数
こども29人、保護者1人の予定であった）

(2) 場所

砥部町ひろた交流センター

(3) 対象者と参加者数

砥部地域や山村留学センターの小学生・保育園児

第1回 子ども29名、山村留学センター職員、砥部町ひろた交流センター職員、
砥部町小学校教員

(4) 実施者と実施内容

担当者 佐川 輝高

第1回「人間を知ろう」

① 病気から体を守る仕組み

NIH のデータを基にしてコロナウイルスの模型を作り、ウイルスの形を体験した。インフルエンザウイルスの模型と抗原決定基の異なる抗体模型2種類を耕作し、ワクチンの働きを勉強した。スライムを貪食細胞に見立てて、貪食細胞が病原体を貪食するのを体験した。

② 目玉をつくる

紫外線で硬化するレジンをを用いて、体積が同じで厚みの違うレンズを作製し、近くを見る目と遠くを見る目を作製。また、近くを見る目と同じレンズを用いて、物に近づいて見ると眼球が伸び、網膜剥離の原因となりうることを体験できるカメラ眼の模型を作り、実験を行った。

第2回【予定していた内容】「電気を知ろう 電気ってどんなもの?!」

① 「発電って大変」

② 「フリフリ発電機を作る」



5) 評価と課題

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける形はなったが、山村留学の子どもに加え、約1/3程度が砥部小学校の児童であり、参加者に広がりが見られた。全国的に見ても、理科教室や科学教室という物理・化学・工学系統が大部分であり、生物、特に人体に関するものの工作実験イベントは極めて特殊であり、砥部町内でも同様の需要があったためだと考えられた。昨年度に引き続き、本年度の参加者の考察レベルもかなり高く、内容を更に高度化しても良かったかもしれないと考えられた。広田支所としては、この事業をこれからも継続していきたいとのことであった。

第2回は年度ぎりぎりまで延期を繰り返したが、残念ながら、令和5年2月15日(水)に中止が決定された。工作材料は既に購入済みなので、来年度以降にこれらが生かされるようにしたい。

8. ブックトーク&メディカルトーク

1) 概要

子どもの読書活動推進のための「ブックトーク」事業において、高校生達が将来を思い描きながら自ら進んで良書に触れていくことを目的とし、「メディカルトーク」を共催し、本学教員が講話を行った。

2) 実施主体

愛媛県立図書館、愛媛県立医療技術大学地域交流センター（共催）

3) プロジェクトメンバー

ブックトーク 愛媛県立図書館 教育専門員 石川幸代 氏
メディカルトーク 本学保健科学部 臨床検査学科 矢野弘子 助教

4) 事業内容

- (1) 実施日時 令和4年9月27日（火）14:00～15:30
- (2) 実施場所 愛媛県立川之江高校高等学校
- (3) 参加者人数 16名（生徒10名 教職員4名 見学者2名）
- (4) 実施内容

① ブックトーク 14:00～14:40 愛媛県立図書館：教育専門員 石川幸代 氏
テーマ 「つなぐ・つながる」

② メディカルトーク 14:50～15:30 本学 矢野弘子 助教
テーマ 「健康診断その後に」

学校健診で馴染みのある尿に加え、血液、便がどのような検査を受けて受診者の手元に検査値として返却されるのかについて紹介した。

5) 評価と課題

文化祭の片付け時間中ではあったものの、医療に関心のある生徒が集まってくれた。尿や血液といった身近なものを例にとることで、検査や医療について関心をもってもらえたのではないかと考える。

9. 麻生小学校「校区探検」

1) 概要

麻生小学校2年生の生活科授業「もつとなかよし町たんけん」の学習で、麻生小学校校区で生活したり働いたりしている人々や様々な場所に関心を持ち、親しみや愛着をもって、人々と適切に接したり安全に生活することが出来るようにする「校区探検」を実施している。本学も校区探検施設として協力し、本学及び医療への関心を持ってもらう。

2) 実施主体

愛媛県立医療技術大学地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

担当者：谷本淳子助教、矢野弘子助教、岸田直樹主任

協力者：越智百枝地域交流センター長、佐川輝高特任講師

野本百合子看護学科長、脇坂浩之教授、豊田ゆかり教授、松井美由紀教授、仲渡江美准教授、中越利佳准教授、藤原紀世子講師

則松良明臨床検査学科長、美間健彦教授、高田智世准教授

泉浩専門員、学生ボランティア4名

4) 事業計画

(1) 日時

令和4年11月11日（金）9：30～10：15

(2) 場所

愛媛県立医療技術大学構内

(3) 対象者と参加者数

麻生小学校2年生10名、引率教諭4名

(4) 実施内容

第1グループ(9:30～10:00) 児童5名+引率教諭2名

時間	内容	場所	担当者
9:30	集合 @注意事項の説明	南棟エントランス *体温測定&手指消毒	谷本
階段で南棟2階まで移動			
9:31	授業見学 @科目「基礎ゼミ」 @科目「臨床微生物学Ⅰ」	南棟2階各教室(216・215・217) *入口から授業風景を眺めるのみ	谷本助教 & 臨床検査 学科学生
階段で南棟4階まで移動			
9:34	看護学科の実習室見学 @赤ちゃん抱っこ体験	基礎看護実習室(410) 成人看護実習室(412) *410・412は入口から見学するのみ 母子看護実習室(414) *スリッパに履き替える	泉専門員
階段で南棟3階まで移動			
9:45	図書館見学	図書館	谷本助教 & 臨床検査 学科学生
北棟3階の廊下を通過して移動			
9:48	臨床検査学科の実習室見学	臨床化学実習室(362) 遺伝子検査学実習室(359)	谷本助教 & 臨床検査 学科学生
階段で北棟1階まで移動			
9:52	北棟1階見学	情報科学演習室 *入口から見学するのみ	谷本助教 & 臨床検査 学科学生
北棟1階の廊下を通過して、食堂へ移動			
	施設見学	食堂・体育館 *食堂は中を通過して、体育館は外から見学のみ	谷本助教 & 臨床検査 学科学生
9:55	質疑応答	学生ホール ※児童からの質問を受ける	
10:00		終了/解散	

第2グループ(9:30～10:00) 児童5名+引率教諭2名

時間	内容	場所	担当者
9:30	集合 @注意事項の説明	南棟エントランス *体温測定&手指消毒	谷本
図書館下を通過して移動			
9:31	北棟1階見学	情報科学演習室 *入口から見学するのみ	矢野助教 & 看護学科 学生
階段で北棟3階まで移動			
9:32	臨床検査学科の実習室見学	臨床化学実習室(362) 遺伝子検査学実習室(359)	泉専門員
北棟3階の廊下を通過して移動			
9:36	図書館見学	図書館	泉専門員
階段で南棟4階まで移動			
9:41	看護学科の実習室見学 @赤ちゃん抱っこ体験	基礎看護実習室(410) 成人看護実習室(412) *410・412は入口から見学するのみ 母子看護実習室(414) *スリッパに履き替える	矢野助教 & 看護学科 学生
階段で南棟2階まで移動			
9:52	授業見学 @科目「基礎ゼミ」 ※科目責任者脇坂先生了承済み @科目「臨床微生物学Ⅰ」 ※科目責任者美間先生了承済み	南棟2階各教室(216・215・217) *入口から授業風景を眺めるのみ	矢野助教 & 看護学科 学生
階段で南棟1階まで移動			
	施設見学	食堂・体育館 *食堂は中を通過して、体育館は外から見学のみ	矢野助教 & 看護学科 学生
9:55	質疑応答	学生ホール ※児童からの質問を受ける	
10:00		終了/解散	

5) 参加者の感想

○いろんなことを細かくおしえてくれてありがとうございました。

- いろいろなひみつをおしえてくれてありがとうございました。
- だいがくでべんきょうをしているときに入らせてくれてありがとうございました。
- しつもんに答えてくれてありがとうございました。
- いろいろ見せてくれてありがとうございました。
- としょかんでマスコットキャラクターがいると思いませんでした
- いっぱいわからないことをおしえてくれてありがとうございました。
- いろいろなことをさせてくださってありがとうございました。

【当日の様子】



授業見学



赤ちゃん抱っこ体験



臨床検査実習室見学



図書館見学



食堂見学



質疑応答

6) 評価と課題

コロナ禍での実施ということで、主催者及び参加者ともに不織布マスクの着用、手指消毒等、十分な感染対策のうえ実施した。児童は実習室や実験室、グループワークといった

大学ならではの施設や授業形態に興味深く見ていた。赤ちゃん抱っこ体験では、新生児人形を「重たい～」「赤ちゃんかわいい～」と嬉しそうに抱っこしていた。臨床検査学科の実習室では、ジュースから取り出した DNA を見た児童と引率教諭は興奮気味に観察していた。図書館では、図書館マスコットキャラクター「える」のしおりをプレゼントし、児童は非常に喜んでいて。学生ボランティアも、各実習室の説明や質疑応答がしっかりとしており大変心強かった。

次年度へ向けての課題としては、時間が 15 分程押してしまったため、見学箇所を実習室だけに絞る、或いは麻生小学校へ本学の持ち時間を延ばしてもらうよう依頼する等があげられ、今後さらなる検討が必要である。

10. 夏休み理科教室「からだのひみつをしろう」

1) 趣旨または概要

様々な体験を通して子どもたちに科学や人への興味関心を高めることを目的とするものである。対象は、砥部町内の小学生・幼稚園保育園児。

2) 実施主体・連携協力機関

NPO 法人 とベ子育て支援団体「ぽっかぽか」

3) プロジェクトメンバー

佐川 輝高 (愛媛県立医療技術大学)

土居 茜、三浦 淳子 (NPO 法人 とベ子育て支援団体「ぽっかぽか」)

4) 事業

(1) 日時

第1回 令和4年8月19日(金) 10:00~12:00

第2回 令和4年8月23日(火) 10:00~12:00

(2) 場所

愛媛県立医療技術大学

(3) 対象者と参加者数

砥部町内の小学生(幼稚園保育園児)とその保護者

但し、3年生までは保護者同伴とする

第1回 令和4年8月19日(金) 子ども17人、保護者

第2回 令和4年8月23日(火) 子ども10人、保護者

(4) 実施者と実施内容

担当者 佐川 輝高

第1回「目のひみつを知ろう ～ヒトの目って進化してる?～」

イカ目、ヒト目、ミツバチ目の工作を通して、優れているとはどういうことかを考えてもらった。レジンで作製したレンズと卓球玉を使って、イカ目、ヒト目を工作し、その構造と働きを学んだ。また、ヒト目に関しては、近くを見る目と遠くを見る目を工作、近くを見る目を使い、更にものに目を近づけたらどのようなになるかを実験した。ミツバチの目は、目の回折にのみ注目し、回折格子で目を工作し、光とミツバチの関係を体験してもらった。



第2回「手洗いとしょうどく、どっちが大切？」

NIH のデータを基にしてコロナウイルスの模型を作り、ウイルスの構造を学習。食用油を脂質膜に見立てて、手洗い用石鹼とアルコール消毒液、どちらも1回使用量で、どちらが油をよく壊せるかの実験を行った。次に、各種マスクの材質・構造を学習後、農業用ネットをマスクに見立てて、その穴の大きさから換算して作製したウイルス粒子や、花粉などの通過をどのようにしたら防げるかの実験を行った。NIH のデータを基にしてコロナウイルスのスパイクとそれに特異的な抗体の模型を工作し、これを用い、抗体がどのように働くのかを学習した。



5) 評価と課題

コロナ真最中だったので、多少の体調不良でも安全をとって休んだ子供が多かった。子ども達も熱心に勉強していたが、保護者が楽しそうだった。特に2回目は、ウイルス感染に関して参加者の関心が高まっていることもあり、保護者からの質問が極めて多かった。砥部町では子どもが複数人いる家庭が多く、小学校就学前の子どもも楽しく参加でき、複数人の子どもが参加しても家計にやさしい、参加費無料の科学教室が強く望まれているとの参加者の声があった。本年度は、コロナ禍という事情でこのNPO法人とベ子育て支援団体「ぽっかぽか」主催の夏休み理科教室を地域交流センターと共同開催することになったが、これまで他任意団体（本学教員で構成）との共同で10年近く開催してきており、その参加者の中には、小学校の頃から本学への進学を希望し、更には本学に入学した者も複数人居たとのことであった。これからも何らかの形で、このような活動を継続することが良いのかもしれない。

Ⅲ 相談支援

1. 臨床看護相談室

愛媛県看護協会に後援いただき、県内のあらゆる規模の病院で活躍する看護職の研究相談を受け付けている。令和4年度は3件の相談があり、専門領域である教員が相談に応じた。

IV 調査研究

*本年度はコロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となった。

V 教員の社会貢献活動 報告

IV 教員の社会貢献活動報告

1. 保健医療機関、行政、企業、関係団体が開催する講座や研修の支援

氏名	主催者	講座、研修会内容	支援対象者
		(開始時期、役割、経過、今後の予定など)	
野本百合子	県立4病院研修ラダーⅢトライ「看護研究の基礎」	県立4病院研修の「看護研究の基礎」に関して、研修内容企画段階から相談にのるとともに、研修会講師も担当し、提出された研究計画書に対する助言・指導を行った。	県立4病院看護師(4年目～10年目)
野本百合子	県立今治病院院内における看護研究支援	県立今治病院において、研究に取り組む看護職者に対し、研究の進め方及び抄録・発表原稿のまとめ方などについて助言するとともに、院内研究発表会にも参加し、講評を述べた。	県立今治病院看護師
野本百合子 徳永なみじ 香川里美 北川恵 谷本淳子 森敬子	愛媛県医療対策課「愛媛県看護教員継続教育研修事業」	愛媛県の事業として委託(地域交流センター)を受けて実施された研修会であり、企画立案段階から関与し、研修会Ⅰ(2022年11月26日)・Ⅱ(2022年12月10日)の2回にわたり、研修会の運営にあたった。 ＜役割＞ ・研修会の企画立案 ・外部講師との連絡・調整 ・研修会でのファシリテータ・司会 ・会場の調整・提供 野本百合子(企画統括責任者)、徳永なみじ(研修会Ⅱ責任者)、香川里美(運営)、北川恵(研修会Ⅰ責任者)、谷本淳子(総務)、森敬子(運営)	愛媛県下の看護学教員
田中美延里 入野了士 奥田美恵 瀬戸裕一	愛媛県医療対策課	令和4年度愛媛県地域保健保健師等研修会の企画・運営についての相談を受け参画した。	愛媛県医療対策課
田中美延里 入野了士 奥田美恵 瀬戸裕一	愛媛県医療対策課	令和4年度愛媛県保健師スキルアップ研修会の企画・運営についての相談を受け参画した。	愛媛県医療対策課
田中美延里	今治保健所	令和4年度地域保健保健師等研修会の企画・運営に関する相談に対応した。	今治保健所企画課
窪田静	愛媛県生涯学習センター	コミュニティーカレッジ「健康・福祉・介護講座」の企画・運営についての相談を受け参画した。	愛媛県生涯学習センター担当者
窪田静	中予地区老人福祉施設協議会	中予地区老人福祉施設協議会の研修の企画・運営についての相談を受け参画した。	社会福祉法人広寿会施設長
入野了士	愛媛県健康増進課	令和4年度ビッグデータ活用研修会について、企画・運営についての相談を受け参画した。	愛媛県健康増進課
入野了士	愛媛県健康増進課	令和4年度歯科口腔保健ワークショップについて、企画・運営についての相談を受け参画した。	愛媛県健康増進課

入野了士	中予保健所	令和4年度中予保健所地域保健保健師等研修会について、企画・運営についての相談を受け参画した。	中予保健所企画課
入野了士	宇和島保健所	令和4年度宇和島保健所地域保健保健師等研修会について、企画・運営についての相談を受け参画した。	宇和島保健所企画課
入野了士	西条保健所	令和4年度西条保健所ビッグデータ活用研修会について、企画・運営についての相談を受け参画した。	西条保健所健康増進課
入野了士	全国健康保険協会愛媛支部	令和4年度全国健康保険協会愛媛支部研修会について、企画・運営についての相談を受け参画した。	全国健康保険協会愛媛支部
豊田ゆかり	愛媛県	医療的ケア児等支援者養成のための研修として「ライフステージにおける支援3」を担当（オンデマンド）	保健師・看護師・社会福祉士・相談支援専門員等
豊田ゆかり	愛媛県訪問看護協議会	「小児の家族支援」について講義を実施（ZOOM）	訪問看護ステーション管理者
豊田ゆかり	松山市ファミリーサポートセンター	初級講習会「子どもの世話」について講義を実施	育児提供員
豊田ゆかり	中予保健所・あいゆう・愛媛県医療技術大学	中予地区の母子保健活動推進のために、保健師の知識・技術の向上をめざし母子保健研修会を実施	保健師
松井美由紀	愛媛県公営企業管理局県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開（基礎編）」研修について企画運営から携わり、研修講師として研修を行った。次年度も、3年目以上の看護師を対象とした「看護過程の展開（基礎編）」の講師として企画からかかわっていく予定である。	県立病院看護職員
松井美由紀	ELNEC 愛媛	「緩和ケア：ELNEC」の研修企画についての相談を受け、ELNEC研修の支援を行った。次年度も同じく企画およびファシリテータ等で支援する予定	県内看護師
松井美由紀	愛媛県がん診療連携協議会	令和3年度がん看護実践能力向上研修会の企画およびファシリテーターとして支援。次年度も支援予定	県内看護師
永井さつき	愛媛県看護協会	認定看護管理者教育課程ファーストレベル自己課題実践報告書の作成支援、発表会の講評などを行う。 また研修全体の評価、また教育内容の点検・助言などをおこなう。 フォローアップ研修を企画した。 「文献検索・文章の書き方」について講義を行う。	県内看護師
永井さつき	愛媛県看護協会	認定看護管理者教育課程セカンドレベル受講者の選抜、看護管理実践計画書の作成についての講義、作成指導、発表会での講評を行う。	県内看護師
永井さつき	愛媛県長寿介護課	介護支援専門員実務研修 法定研修における受講生の指導および講義・グループワークのファシリテーター、指導者検討会への出席	県内介護支援専門員
仲田琴美	愛媛県公営企業管理局県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開（基礎編）」研修のファシリテーターとして参加した。次年度も、継続して研修に関わる予定である。	県立病院看護師

竹内一人	日本血液学会中国四 国地方会	第17回血液内科研修医セミナーin愛媛の企画・運営に 携わり、ファシリテーターを担当した。	医師
松村美紀	香川県みどり整備課	香川県が、みどりとのふれあいを通して、みどりに対す る理解を深めるために行っている事業・みどりの学校の 講座の一つ「五色台自然学校」を月1回のペースで実施 した。	一般市民
保健医療機関、行政、企業、関係団体が開催する講座や研修の支援			合計件数 27件

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画

行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成 と所属	成果の公表
入野了士 長尾奈美 瀬戸裕一	新居浜市健康プログラム事業	令和4年度に実施した左記事業の企画・実施・評価方法について参画するとともに、実施結果の収集とデータを基に評価を行った。	新居浜市の健康づくりに関わる関係職種12名及びデータ収集・評価担当者10名	事業評価報告書として作成
入野了士	愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり事業	特定健康診査の項目別集計、介護保険データによる要介護認知症に関する集計等を行い、評価を行った。	愛媛県の健康情報分析に関わる5名	事業評価報告書として作成
永井さつき	回復期リハビリテーション病棟における入院中の気付きと入院期間の関係	研究方法と結果の読み方、論文の書き方について指導を行った。	病棟看護師と計2名	日本リハビリテーション看護学会誌への投稿予定
岡村法宜	茶成分摂取が歩行時の認知機能に及ぼす効果	研究計画の作成、試験実施およびデータ解析を行った。	県外食品会社研究所の研究者と本人	未定
保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言				
			合計件数	4件

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	令和4年4月から令和5年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	令和4年4月から令和5年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
野本百合子	テスト8ピクチャーズ プロデューサー坂本 篤 氏 映画監督 西山 将貴 氏 その他	本学での映画撮影にあたり、実習室や物品の使用方法についての相談を受けた。	来校
田中美延里	専門職：看護師	看護学生と協働した地域活動の企画について相談を受け、助言を行った。	電話
田中美延里	専門職：看護師	訪問看護ステーションにおける看護学生対象の研修企画について相談を受け、助言を行った。	電話
中平洋子	専門職：看護師	院内研究の成果を学会発表するための助言を行った。	電話・メール
窪田静	専門職：看護師	入院中の難治性褥瘡患者の褥瘡対策と離床の質向上のための指導を行った。	訪問・メール
窪田静	専門職：看護師	病院及び関連施設でのノーリフト推進のためのヒアリングと助言を行った。	zoom・メール
窪田静	企業	社員教育としての福祉用具の研修(デンマーク人講師)に参加し、必要な助言と指導を行った。	zoom
窪田静	企業	日本の福祉用具活用技術向上のために必要な戦略についての継続的な検討・指導を行った。	zoom
窪田静	企業	福祉用具のプレゼンテーション技法の評価・助言・指導を行った。	訪問・zoom・メール
窪田静	企業	開発中の福祉用具の評価・助言・指導を行った。	訪問
入野了士	専門職：看護師	看護系学会での研究発表について相談を受け、構成等を含めて助言を行った。	面談・電話・メール
入野了士	専門職：保健師	研究集会発表に係る抄録の内容について相談を受け、構成等を含めて助言を行った。	電話・メール
入野了士	専門職：保健師	事業で収集したデータ分析について相談を受け、データ分析を実施した後、その結果について情報提供を行った。	面談・メール
入野了士	専門職：保健師	事業で実施したアンケートの分析について相談を受け、データ分析を実施した後、その結果について情報提供を行った。	来校・電話・メール
入野了士	専門職：保健師	地域ケア会議の進め方について相談を受け、資料内容等を含めて助言を行った。	来校・電話・メール

長尾奈美	保健師	若年性認知症の人に対する支援体制と社会資源に関する相談があり、実践例と関係機関を紹介した。	面接
長尾奈美	主任介護支援専門員	認知症の本人同士が集える場の運営や取組みについての相談を受け、実践例を紹介した。	面接・電話
長尾奈美	一般	相談者家族の介護サービス利用についての相談を受け、手続きとサービス提供事業所の情報提供を行った。	メール
長尾奈美	一般	認知症の人の家族から生活支援についての相談を受け、支援機関の紹介と情報提供を行った。	電話
瀬戸裕一	専門職：保健師	研究会発表に係る発表の内容について相談を受け、構成等を含めて助言を行った。	面談・電話・メール
瀬戸裕一	専門職：保健師	保健事業実施内容について相談を受け、助言を行った。	電話・メール
豊田ゆかり	看護師	院内の看護師対象のOJTの効果についての研究報告の内容について相談を受け、対応した。	電話・メール
今村朋子	助産学専攻科修了生	修了生による就業状況や今後の進路について相談があり、助言を行った。	来校
今村朋子	助産師 (県内施設勤務)	施設内業務について、他施設での取り組みや最新のエビデンスの問い合わせを受け、情報提供を行った。	メール
瀧本千紗	助産師 (県内施設勤務)	施設内業務手順書改定に伴うエビデンスの問い合わせを受け、情報提供を行った。	面接
瀧本千紗	保健師	統計の分析方法について相談を受け、ともに解析を行った。	面接
松井美由紀	看護師	看護記録及び記録監査についての相談を受け、助言をした。	直接
松井美由紀	看護師	院内研修およびラダーについての相談を受け、助言をした	直接
松井美由紀	看護師	看護研究発表についての相談を受け、助言をした。	直接
永井さつき	専門職	医療施設の看護部における職員の質向上のための方策について相談を受けたため、職員の教育と組織の編制などについて助言を行った。	電話
永井さつき	一般	自宅療養中の心不全患者とその家族に対し、生活上の留意点、介護用具のアドバイスなどを行った。	面接
永井さつき	一般	現在は日常生活がまだ自立している状態の神経難病と診断された患者に対し、生活上の留意点や介護用具の紹介などを行った。	面接
光井 綾子	看護教員(県外)	看護研究の分析に関する相談を受け、対応した。	Teams
宮宇地秀代	専門職:看護師(県内外複数 の病院)	新人看護師の教育に関する相談があり、助言を行った。	対面、Zoom
宮宇地秀代	専門職:看護師(県内の 病院)	就業継続に関する相談があり、助言を行った。	対面、メール
宮宇地秀代	専門職:看護師(県外の 病院)	看護系大学での学修に関する相談があり、助言を行った。	対面、電話
森万純	看護師(県内)	院内の看護研究報告の内容について相談を受け、対応した。	面接
森万純	看護師(県内)	院内研究発表に向け、統計分析について相談を受け分析方法について検討した。	面接・メール

岡村法宜	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	脳波キャップ電極不調時の対応に関する相談をメールで受け、メールで助言を行った。	メール
竹内一人	専門職:医師(愛媛県内の病院)	日常診療の中で遭遇した血液疾患の鑑別・診断・治療等に関する相談を受け、指導を行った。	電話・メール
竹内一人	専門職:臨床検査技師 (今治市の病院)	日常診療の中で遭遇した血液疾患の鑑別・診断等に関する相談を受け、指導を行った。	電話・メール
保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応			合計件数 43件

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
中西純子	高次脳機能障害者を支える会（家族会） 「あい」	愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎月1回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との情報交換、相談支援をしている。	顧問として相談、助言
野本百合子 徳永なみじ 香川里美 北川恵 谷本淳子 森敬子 大野祐子	看護技術教育検討会 （愛媛県下の看護職養成教育機関に所属する教員）	愛媛県下の看護学教員の任意参加により構成され、看護学教育・看護技術教育の発展に資する教育研究活動に関する情報交換や研鑽の場として年3回開催されている。	・検討会の企画立案 ・参加校間の連絡・調整 ・検討会での司会・記録 ・会場の調整・提供
越智百枝	愛媛県断酒会	愛媛県断酒会が主催する愛媛県アルコール健康障害対策関係者会議の企画及び運営を行った。	会議の企画・運営の助言及び実施
田中美延里	フリー保健師ネットワーク	愛媛県内在住のフリーランスの保健師や在宅保健師の SNS グループ 互いの活動や自己研鑽に役立つ情報を共有している。	オープン参加の研修会情報の提供
窪田静	愛媛生協病院看護部	美須賀病院を視察した愛媛生協病院総看護師長が企画運営し、講師に美須賀病院看護部長を招いた半日がかりの中四地協 看護部長・総看護師長研修会。今後の愛媛生協病院での看護活動への関与を打診されて参画した。	研修会へのオブザーバー参加と助言
窪田静	中予地区老人福祉施設協議会	研修の企画・運営のために、研修を起案された担当者が務める施設の現状を視察し、目的・目標を明確にして問題解決に貢献する研修会の方法を検討した。	中予地区老人福祉施設協議会研修担当者との協議
入野了士	公衆衛生看護活動に関する自主学習会 「ざくざく」	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研鑽することを目的に自主的に結成した学習会。 コロナ対策の中での学習会検討方法の検討や会員の情報を共有した。	学習会の企画運営の助言
中越利佳	エンブリオ愛媛	エンブリオ基金支援要請者への育児用品の提供	会員
井上明子	NPO 法人はぐくみ	香川県観音寺市のパパママ教室において、助産師として妊娠中から育児期にかけての過ごし方等の講義を行った。	講師
伊藤美香	一般社団法人地域ケア研究所	健康教室事業「誰でもできます！地域ぐるみ両親学級」の講座において、妊娠中の母体の変化、胎児の成長に関する講演を行った。	講師
患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援		合計件数	10件

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	日本看護研究学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、 委員会活動	理事・評議員・学 会誌査読委員 大規模災害支援事 業委員会委員長 中国・四国地方会 副会長
中西純子	日本看護科学学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、 委員会活動	代議員
中西純子	日本がん看護学会	がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会 誌の発行、研究推進活動、等。	代議員 学会誌査読委員
中西純子	日本看護学教育学会	看護学教育の発展に寄与することを目的に活動 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、 委員会活動	評議員 学会誌査読委員
中西純子	日本リハビリテーシ ョン看護学会	リハビリテーション看護学の発展に寄与することを 目的とする。 学術集会の開催、学会誌の発行、等。年に1件程度、 論文査読を担当。	学会誌査読委員
中西純子	高知女子大学看護学 会	高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、 学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など 左記学会の論文査読を年1件程度担当	学会誌査読委員
中西純子	愛媛県ナースセンタ ー運営委員会	ナースセンターの運営について検討 年2回委員会 開催	運営委員
中西純子	看護職員確保・県内定 着推進協議会	愛媛県内の医療・福祉を担う看護職員の確保・定着 を推進し、併せて看護の質の向上を図ることを目的 に平成28年より設置された。	協議会委員
中西純子	愛媛県国民健康保険 運営協議会	市町村国保の安定的な財政運営や効率的な事業の確 保等に関し審議する	委員（公益代表）
中西純子	愛媛県医療費適正化 計画推進会議	医療費適正化計画の策定、見直し、計画の進捗状況、 評価に関すること、医療費の調査及び分析に関する こと、等	委員（学識経験者）
中西純子	高知県立大学看護研 究倫理審査委員会	左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどう か、外部委員として参加	外部委員
中西純子	四国公衆衛生学会	公衆衛生全般に関する調査研究、知識の普及等の事 業の発展を図り、以って公衆衛生の増進に寄与する。	理事
草薙康城	愛媛県産婦人科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するとと もに、女性の健康を保持・増進し、もって国民の保 健の向上に寄与することを目的とする。	常任理事（広報、 学術、がん対策担 当）、会報編集委 員
草薙康城	愛媛県生殖医療研究 会	愛媛県における生殖医療を向上させることを目的と する。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人

草薙康城	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会専門医研修施設の選定、専門医の認定を行う。	委員
草薙康城	愛媛県生活習慣病予防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
草薙康城	愛媛県産婦人科臨床セミナー	愛媛県内における産婦人科医師に対する臨床的な支援を行う。	世話人
草薙康城	愛媛県医師会医療事故調査委員会	医療事故発生時の第三者として院内事故調査委員会に加わる。	支援医
草薙康城	順風会精度管理委員	がん検診、特定健診の精度管理を行う。	精度管理委員
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会 愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、コメディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行っている。	監事
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている。	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく。	候補者
鳥居順子	愛媛県国民健康保険審査会	愛媛県において、国民健康保険法に基づき保険給付に関する処分他の処分に不服がある者の審査請求を受けて審理する。	委員
鳥居順子	愛媛県開発審査会	都市計画法第78条及び愛媛県開発審査会条例に基づき、開発許可処分等についての審査請求に対する裁決と、市街化調整区域で行われる開発行為で愛媛県が許可する案件の審議を行う。	委員
鳥居順子	愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり協議会	愛媛県の健診・医療・介護に係る客観的なデータに基づく全県的な疾病予防や健康づくり等を推進し、健康寿命の延伸、医療費の抑制等をはかるために設置されている。	委員
鳥居順子	砥部町総合計画等審議会	砥部町が「第2次砥部町総合計画」及び「第2期砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の効果検証のために設置している審議会である。連携協定に基づく参画。	委員
仲渡江美	日本赤ちゃん学会	総合的な学問領域としての「赤ちゃん学 (Baby Science)」の進歩普及を図り、子どもの健全な発達に寄与する。主な事業は、学術集会および公開シンポジウムの開催、機関誌およびその他の刊行物の発行、会員による共同研究、関連団体との協力。	評議員
金澤知典	電気学会 知・技の伝承と複合現実型実応用協同研究委員会	人文、芸術、教育、スポーツ、健康、福祉、産業といった様々な分野の専門家がコラボレーションすることで、人間の知覚、認知、行動、技能を解明し、複合現実感技術を用いたより効果的・効率的なモノ・コトの知・技の伝承と実応用化に向けた共同研究を行うことを目的とする。	委員

野本百合子	一般社団法人 日本看護学教育学会	本学会は、看護学教育の発展を図り、看護職者による専門的な活動の質向上に寄与することを目的とし、学術集会の開催、学会誌の発行、看護学教育に関する研究および情報交換、研究助成、看護に携わる者の人材育成、国内外の看護学教育に関連する諸組織との連携等の活動を展開している。	評議員 査読委員
野本百合子	千葉看護学会	本学会は、看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていく研究へと推進することを目的とし、現実の諸問題を解決するために実践的研究を一層充実させるとともに、会員相互の学術的研鑽を図り、看護学の発展に寄与する種々の学術活動を行っている。	査読委員
野本百合子	えひめ女性財団	愛媛県における男女共同参画社会づくりを推進することを目的とし、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会活動の促進等を基本方針とした事業や愛媛県男女共同参画センターの管理運営などを行っている財団の活動や予算計画に対して評議員としての意見述べるなどの役割を担っている。	評議員
野本百合子	えひめ女性財団	えひめ女性財団が実施している研究助成事業の選考にあたり、審査員として、研究計画及び成果の活用性について、意見を述べた。	研究助成審査員
野本百合子	公益財団法人 星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む。）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。評議員として、奨学会の活動に対する意見を述べた。	評議員
野本百合子	愛媛県看護部長・ 教務責任者協議会 (教員部会)	本協議会は、愛媛県内の病院看護部長及び看護職養成教育機関の教務責任者のうち、任意の参加者によって組織されている協議会である。愛媛県内の医療機関や教育機関の情報を共有したり、愛媛県から国の医療施策に関する情報提供を受けたりするための研修会を年2回開催している。本年度より、教員部会の会長 兼 本会の理事として、会員の要望を基に、研修会等の企画・運営に携わった。	本会 理事 教員部会 会長
野本百合子 香川里美	愛媛県准看護師試験 委員会	保健師助産師看護師法第25条の規定による准看護師試験委員として、試験問題や行政処分等にかかわる事項を協議する。	委員
徳永なみじ	新人職員研修推進 協議会 (愛媛県看護協会)	本協議会は、県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置され、新人看護職員の研修体制及び指導者の育成のための検討や研修会を開催している。	委員

徳永なみじ	一般社団法人 日本看護技術学会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。その目的を達成するため、評議員として学会活動支援を担う。	評議員
徳永なみじ	一般社団法人 日本看護技術学会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。学会誌査読委員は、学会誌の発行と研究の促進を支援する。	学会誌査読委員
徳永なみじ	一般社団法人 日本看護技術学会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。本会の運営を担う理事。役員・評議員の選出が公正に行われるための役割を担う。	選挙管理委員会委員
徳永なみじ	一般社団法人 日本看護技術学会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。本会の運営を担う理事。役員・評議員の選出が公正に行われるための役割を担う。	倫理委員会委員
徳永なみじ 大野祐子	愛媛県立医療技術 短期大学・愛媛県立 医療技術大学・ 大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	監事 理事
北川 恵	一般社団法人 日本臨床栄養代謝 学会	本法人は、会員数2万人を超える多職種が所属する学会であり、栄養療法及びそれらを支える基礎的栄養学全般に関する研究連絡、知識の交換、提携の場となることを目的とし、学術集会の開催、学会誌等の発行、研究活動の推進などを推進している。評議員として、学術集会の運営、近畿地区世話人として地方会の運営に携わっている。	評議員
香川里美	愛媛県保健師助産師 看護師臨地実習指導 者講習会運営協議会	保健師助産師看護師臨地実習指導者講習会の充実をはかるために、受け入れ施設における臨地実習指導者の実態把握、指導体制の整備に関すること、講習	委員

		会の企画・運営・評価に関すること、等を協議する。	
越智百枝	公益財団法人星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む。）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。	奨学生選考委員
越智百枝	愛媛県精神医療審査会	平成 26 年 8 月より審査会委員の委嘱を受け、毎月 1 回措置入院患者及び医療保護入院患者の入院届、定期病状報告の事前審査を行い、審査会に出席し意見を述べた。退院請求のあった入院患者の聞き取りを行い請求内容の妥当性について審査を行った。	委員
越智百枝	愛媛県依存症対策推進計画策定員委員会	愛媛県依存症対策推進計画の策定を行う。	委員長
越智百枝	松山市自殺対策推進委員会	松山市住民の自殺対策の推進を目的とする。計画の進捗状況を実施状況から査定し、来年度の計画について意見を述べた。	委員長
越智百枝	松山市社会福祉施設整備審査会	平成 29 年 4 月より委嘱を受け、申請書類の審査を行った。	委員
越智百枝 中平洋子	日本看護研究学会第 48 回学術集会	2022 年 8 月に愛媛県松山市で開催された日本看護研究学会学術集会の企画運営に参画した。	企画委員・実行委員
越智百枝 中平洋子	高知女子大学看護学会	看護学の進歩発展と会員相互の研鑽・親睦を計り、もって看護の向上に資することを目的とする学会。高知女子学会誌への投稿原稿の学会誌への査読を行った。	査読委員
越智百枝 中平洋子	日本精神保健看護学会	精神保健看護学の発展をはかり、広く知識の交流に努め、もって人々の精神の健康と福祉に貢献することを目的とする学会。学会誌への投稿原稿の査読を行った。	査読委員
田中美延里	日本地域看護学会	地域看護学の学術を、行政・産業・学校・在宅の 4 領域の観点で捉え、地域看護学の発展に寄与する研究、実践、教育を追究していく学会。	代議員・学会誌査読委員
田中美延里	日本ルーラルナースィング学会	へき地における看護の研究を推進し、日本におけるへき地看護学を確立・発展させることをとおして、へき地の保健医療福祉の向上に寄与することを目的とする学会。	評議員・学会誌査読委員
田中美延里	千葉看護学会	看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的とする学会。「実践と研究の往還」を中核理念として看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていく研究を推進する。	学会誌査読委員
田中美延里	愛媛県建築審査会	建築基準法の規定に基づく許可申請に対する同意並びに審査請求の議決等を行う。	委員
田中美延里	松山市社会福祉審議会	松山市における福祉行政施策や事業の実施・評価について協議する。	委員

田中美延里	松山市健康増進計画 推進懇談会	松山市健康増進計画の推進に関して意見交換及び意見聴取を行う。	委員
中平洋子	愛媛県精神障がい者 地域移行支援協議会	受入条件が整えば退院等が可能な精神障がい者の地域移行促進を図ることを目指し、病院・施設等と連携し、地域生活への移行にむけた支援を促進することを目指す協議会。委員として意見を述べる。	委員
中平洋子	愛媛県精神医療審査 会	精神障害者の人権に配慮しつつ、その適正な医療と保護を確保するため、専門的かつ独立的な審査を行う機関。審査会の業務のうち、精神科病院の入院患者又はその家族から退院請求や処遇改善請求があった場合、入院の要否や処遇の適否を審査するための面接を行う。	委員
中平洋子	伊予市自殺対策計画 策定審議会	誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現をめざし、伊予市の自殺対策計画を策定する審議会。委員として意見を述べる。	副委員長
中平洋子	松前町障害者基本計 画策定委員会	松前町第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画の策定。委員として意見を述べる。	委員
窪田静	三輪書店	1年間に発行された作業療法ジャーナルを論評し、企画を提案した。	編集同人
窪田静	日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会・ポジショニング班員として、エビデンスに基づく看護技術の啓発・普及活動に従事した。	班員
入野了士	日本看護科学学会	若手が自立して学術活動及び国内外の若手研究者との交流を行い、20年、30年先の看護学の発展への貢献をめざして、各エリアにおいて「JANS 若手の会」の活動拠点をつくり、エリア検討会開催やSNS交流等で仲間づくりや研究推進を行う。	エリアコーディネーター
入野了士	ビッグデータ活用県 民健康づくり事業分 析ワーキンググルー プ	健診・医療・介護のビッグデータに基づく全県的な疾病予防・健康づくり事業等を進展し、健康寿命の延伸、医療費の抑制を図るため、県ビッグデータの分析、検討、資料化を行った。	委員
入野了士	全国保健師教育機関 協議会教育課程委員 会	看護師教育における高齢者保健技術に関して検討し、学会、全国夏季研修会で意見交換を行った。	委員
入野了士	新居浜市健康プログ ラム事業実行委員	新居浜市の就労層の運動習慣の定着を目的とした健康プログラム事業について、事業所の健康づくり活動との連動について検討するとともに、事業の成果を分析して報告書としてまとめた。	委員
入野了士	松山市国民健康保険 特定保健指導業務委 託選考委員会	松山市の国民健康保険特定保健指導業務を委託するにあたり、松山市の更なる事業充実に適した業者を決定するため、公募型プロポーザルに委員として参加し、学的見地から意見を述べる。	委員
入野了士	松山市地域包括支援 センター東・拓南素鷲 地区地域ケア会議・八 坂地区地域ケア会議	地区の特定健診結果や地区住民からの聴き取りから見えてきた地域の健康課題について、地区代表者や関係機関が地域でできる取組みを検討する会で、学識経験者として助言する。	助言者

入野了士	災害時歯科口腔保健支援活動に関する課題整理のためのワークショップ	災害時の歯科口腔保健支援活動の準備状況等の全体像を整理し、県および市町の課題を抽出後、課題の優先順位付けと今後の取組の方向性を確認する作業にファシリテーターとして参加した。	ファシリテーター
入野了士 坂元勇太	日本看護研究学会第48回学術集会	2022年8月に愛媛県松山市で開催された日本看護研究学会学術集会の運営に参画している。	実行委員
奥田美恵	松前町国民健康保険運営協議会	令和4年度松前町国民健康保険運営協議会委員として松前町国民健康保険の適正な運営を図る。	委員
奥田美恵	砥部町健康づくり計画食育推進計画策定委員会	砥部町職員・関係機関・地域住民代表者とともに砥部町健康づくり計画及び食育推進計画を策定する。	委員
奥田美恵	日本看護学会	看護職の実践に根ざした学術研究の振興を通して看護の質の向上を図り、人々の健康と福祉に貢献することを目的とする学会。	査読委員
坂元勇太 長尾奈美	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
豊田ゆかり	愛媛県慢性疾病児童等地域支援協議会	慢性疾病児童等の日常生活支援に関する愛媛県の現状把握及び対策について保健・福祉・医療・教育・就労及び家族会を代表する委員と検討	委員長
豊田ゆかり	愛媛県介護保険審査会	介護保険給付等の処分に対する不服申し立ての審査・裁決を行う第三者機関の委員として活動	委員
豊田ゆかり	松山市保健所運営協議会委員	保健所活動に関する報告を受け、今後の活動の方向性について検討	委員
豊田ゆかり	松前町介護給付審査会委員	障害者認定に関する審査、裁決	委員
豊田ゆかり	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会企画・実行委員
豊田ゆかり	質的統合法(KJ法)研究会	質的統合法(KJ法)研究会の企画	企画委員
枝川千鶴子	特定非営利活動法人ラ・ファミリエ	難病をもつ子供たち及びその家族を支援し、もって不特定多数のもの利益の増進に寄与することを目的とする団体	理事
枝川千鶴子	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会企画・実行委員
枝川千鶴子	愛媛県救急安心センター(#7119)事業検討委員会	愛媛県救急安心センター(#7119)事業導入の検討と県・市町連携推進	アドバイザー
中越利佳	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会企画・実行委員
中越利佳	愛媛県看護協会	理事として月1回理事会に出席。日本看護協会活動基本指針に基づいた愛媛県の活動について検討	理事
中越利佳	愛媛県看護連盟	愛媛県看護連盟教育支部としての研修会の企画運営	教育支部委員
中越利佳	愛媛県看護協会 まちの保健室	まちの保健室相談員の研修企画	まちの保健室運営委員

中越利佳	日本母性衛生学会	学会誌査読 代議員会議出席	代議員
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会 広報委員会	広報委員長：会員向けニュースレター（ひめじよ通信・年1回）の編集・発行、メール配信システムの整備を行った。	広報委員長
今村朋子	全国助産師教育協議会小委員会	助産実習に携わる非常勤教員向け研修会の企画に関する調査を実施し、次年度の企画へとつなげた。	委員
井上明子	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会企画・実行委員
井上明子	全国助産師教育協議会 広報・社会貢献委員	広報活動：マンスリーメールの発行（年2回）、ニュースレター（年1回）	広報委員
井上明子	全国助産師教育協議会 広報・社会貢献委員会	社会貢献活動：危機管理時の助産教育に活用可能な事例集の作成（2事例作成）、全国助産師学生交流会&ポスター発表会当日運営	社会貢献委員
藤原 紀世子	愛媛県看護教員継続教育研修事業	愛媛県内の看護職養成機関において看護職の養成に携わる教員に対するFDと交流を通して、教育の質向上を目的とした研修会の企画・運営に携わった。	地域交流センター看護学科ワーキンググループプロジェクトメンバー
伊藤美香	愛媛看護協会 助産師職能委員会	日本看護協会、愛媛看護協会と連携し、助産師の専門性を強化すべく、定期的な委員会の開催および研修の企画・運営などを行う。	委員
伊藤美香	東予ひめじよ広場「ふわふわ」	愛媛助産師会の子育て・女性健康支援の一環として西条市丹原町で子育て相談を毎月1回開催	相談員
瀧本千紗	一般社団法人愛媛助産師会	理事として月1回理事会に出席。愛媛助産師会の運営について協議し、会員への情報伝達や調整を行った。	理事
瀧本千紗	一般社団法人愛媛助産師会	教育副委員長として研修会の企画、運営を行った。会員管理システムでの研修会開催の環境を整備した。	教育副委員長
瀧本千紗	一般社団法人愛媛助産師会 広報委員会	広報委員：会員向けニュースレター（ひめじよ通信・年1回）の編集・発行、ひめじよお知らせメールおよび公式LINEアカウントの管理	広報委員
瀧本千紗	えひめリトルベビーハンドブック検討委員会	小さく生まれた赤ちゃんのご家族のための母子健康手帳サブブック（えひめリトルベビーハンドブック）作成のための検討会議に参加し、助産師として執筆した。	委員
瀧本千紗	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会企画・実行委員
松井美由紀	日本がん看護学会	がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	評議員
松井美由紀	日本がん看護学会	がん看護学の発展を目的としたがん看護学会誌の査読を行っている。	学会誌査読委員
松井美由紀	日本看護研究学会第48回学術集会	日本看護研究学会は、看護の発展に寄与し、その学会の企画・運営を勤めることで、看護学発展に貢献する。また事務局長として学術集会長の補佐の役割	事務局長

		を担う。	
松井美由紀	愛媛県がん診療連携協議会 がん看護専門部会	愛媛県内のがん看護の質向上を目的に、プログラム企画・実施・運営および評価を行う。	研修企画委員
松井美由紀	公益社団法人愛媛県看護協会	本協会は、愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年1回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催している。	理事（教育担当） 愛媛看護研究学会 実行委員
松井美由紀	公益社団法人日本看護科学学会	本法人は、看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献することを目的とし、学術集会の開催、学会誌等の発行、研究活動の推進、国内外の関連学術団体との協力と連携、研究論文の表彰、国際的な研究協力の推進、人々の健康と福祉に貢献するための社会活動、その他本会の目的達成に必要な事業等の事業を行っている。	代議員
田中昭子	砥部町介護保険事業計画等策定委員会	砥部町の高齢者の保健・福祉施策や介護保険事業に関する計画についての審議、計画の進捗管理の審議を行う。	委員
田中昭子	砥部町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会	砥部町の地域包括支援センター及び地域密着型サービスの運営について審議を行う。	会長
田中昭子	砥部町国民健康保険運営協議会	砥部町長が諮問する国民健康保険事業の運営に関する重要事項等を審議し、町長へ答申する。	会長
田中昭子	ねんりんピック愛媛のえひめ2023 砥部町実行委員会運営委員会	ねんりんピック愛媛のえひめ2023において砥部町で開催される大会の運営について審議する。令和4年度はリハーサル大会の実施について審議し、当日の運営を見守るとともに本学から学生ボランティアを派遣し協力した。	委員
田中昭子	日本看護研究学会第48回学術集会	令和4年8月27～28日に愛媛県松山市で開催された学術集会の企画・実行委員として、抄録集の編集や当日の会場責任者を担当した。	企画・実行委員
永井さつき	愛媛県看護協会看護管理者教育委員会	認定看護管理者教育課程 フォローアップ研修の企画・実施・評価に関すること その他看護管理者研修全般に関すること	委員
永井さつき	松前町介護保険事業運営委員会	松前町高齢者福祉計画および介護保険事業計画の推進並びに地域包括支援センターの運営に関して提言する。	委員
永井さつき	牧病院 看護部	看護のレベル向上のために管理者の意識改革を行い、将来的には看護リーダー導入を目指す。そのための管理者のメンタルサポート、教育体制構築の準備を行う。	看護教育及び指導者

永井さつき	松山看護専門学校 准看護師科	「老年看護」「保健医療福祉のしくみ」講義	非常勤講師
田中昭子 永井さつき 光井綾子	日本看護研究学会第 48回学術集会	2022年8月開催の学術集会の企画・運営等	企画・実行委員
宮宇地秀代 高橋博子 仲田琴美	日本看護研究学会第 48回学術集会	2022年8月に松山市で開催された日本看護研究学会 第48回学術集会の企画運営に参加し事務局として活 動した	企画・実行委員 事務局
高橋博子	愛媛県立医療技術短 期大学・愛媛県立医療 技術大学・大学院同窓 会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発 展に寄与することを目的としている。理事として、 総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理 事会の開催および運営にあたっている。	理事
仲田琴美	愛媛県立医療技術短 期大学・愛媛県立医療 技術大学・大学院同窓 会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発 展に寄与することを目的とし、総会・懇親会や同窓 会会報の出版にあたる業務、会計業務にあたってい る。	理事
仲田琴美	愛媛県看護協会 看護のこころ普及委 員会	看護のこころの普及を目的とし、小・中・高校生を 対象とした看護の日のイベントの企画・運営を行っ た。	委員
山口文徳	第35回全国健康福祉 祭えひめ大会 (ねんりんピック愛 顔のえひめ 2023) 砥部町実行委員 会	実行委員会委員として第35回全国健康福祉祭えひめ 大会において砥部町で開催されるスポーツウェルネ ス吹矢大会開催への協力をおこなった。	実行委員会委員
竹内一人	日本血液学会中国四 国地方会	血液学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々 の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会・ 研修会・セミナーの開催、研究協力の推進など。	評議員
松村美紀	公益財団法人星川奨 学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者 (留学生を含む。)で、学業優秀、品行方正であり ながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨 学援助を行うことによって社会有為の人材を育成す ることを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業 を行っている。	奨学生選考委員
松村美紀	公益社団法人日本生 化学会	研究成果や知識の交換ならびに会員相互間および関 連学(協)会との連絡提携の場となり、生化学の進 歩普及をはかり、もって学術、文化の発展に寄与す ることを目的とする。	評議員
高田智世	愛媛県衛生検査所精 度管理専門委員会	・愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向 上のため精度管理に関する調査研究および保健所長 への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席し た。	精度管理専門委員 会委員
高田智世	特定非営利活動法人 生物試料分析科学会	・臨床検査分野のみならず、広く生物試料の基礎的 研究および分析法の開発に関する研究をすることを 目的に設立 ・中四国地区で開催する支部学術集会の企画・運営	中四国支部役員

		のほか、会員相互の親睦および情報交換の媒介、講演会、出版物の発行などを行う。	
高田智世	(一社)愛媛県臨床検査技師会会誌委員会	愛媛県の臨床検査技師の専門性の向上のため、勉強会の開催、会誌の発行、精度管理を実施した。	会誌編集委員会オブザーバー
高田智世	愛媛県科学技術振興会議衛生環境評価専門部会	愛媛県試験研究機関が実施する試験研究課題の外部評価を行う。	衛生環境評価専門部会委員
高田智世	松山市衛生検査所精度管理専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席した。 	精度管理専門委員会委員
高田智世	(一社)日本臨床検査学教育協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の臨床検査技師養成校が加盟する団体 ・臨床検査学の教育および研究に関する情報交換や調査等を行い、臨床検査学教育事業を実施する会員校およびそこで働く教員の資質向上を図り、臨床検査学教育の質向上に努める。 	理事
行政や各種関係団体の理事・委員等の活動		合計件数	133件

6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱されたボランティア活動等）

氏名	主催者	活動内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
中西純子 野本百合子 岡田ルリ子 徳永なみじ 香川里美 北川恵 越智百枝 田中美延里 中平洋子 奥田美恵 入野了士 坂元勇太 長尾奈美 瀬戸裕一 豊田ゆかり 中越利佳 伊藤美香 瀧本千紗 田中昭子 永井さつき 光井綾子 森万純	松山市保健所の新型コロナウイルス対応業務への応援派遣	新型コロナウイルス禍での保健所の体制強化に資するための応援派遣協定（本学、県、松山市間のR2.12.25付け協定）に基づき、本学教員が松山市保健所の新型コロナウイルス対応業務に従事した。 派遣期間：令和4年5月～9月	松山市民
安川正貴 草薙康城 脇坂浩之 鳥居順子 山口文徳 竹内一人	新型コロナウイルスワクチン集団接種支援	新型コロナウイルスワクチンの早期接種に資するための県との委託契約（R3.6.1付け契約）に基づき、松山市が行う第ワクチン集団接種に本学教員が従事した。 派遣期間：令和4年6月～令和5年1月	松山市民
野本百合子	日本看護教育学会第31回学術集会企画・実行委員	日本看護教育学会第31回学術集会（2022年8月20日：ハイブリッド開催、8月25日～9月7日：オンデマンド配信）の企画・実行委員として、学会集録（看護教育学研究第30巻第2号）の編集活動及び、ハイブリッド開催時の当日受付を担当した。	全国の看護職者
今村朋子	日本看護研究学会	第48回日本看護研究学会学術集会の協力員として携わった。	看護師、保健師、助産師等
藤原紀世子	日本看護研究学会	第48回日本看護研究学会学術集会の協力員として携わった。	看護師、保健師、助産師等

伊藤美香	愛媛県看護協会	「お仕事フェスタ 2023」の協力員として職業ガイダンスを行った。	小・中・高校生
伊藤美香	日本看護研究学会	第 48 回日本看護研究学会学術集会の協力員として携わった。	看護師、保健師、助産師等
森万純	日本看護研究学会	第 48 回日本看護研究学会学術集会の協力員として携わった。	看護師、保健師、助産師等
岡村法宜	日本看護研究学会	日本看護研究学会第 48 回学術集会において、理事会、JINR 編集委員会、中国・四国地方会運営委員会のリモート担当者として運営に携わった。	看護師、保健師、助産師等
竹内一人	日本血液学会中国四国地方会	第 62 回日本血液学会中国四国地方会の企画・運営に携わった。	医師、看護師、臨床検査技師等
竹内一人	愛媛大学医学部	第 83 回ヘルスアカデミー市民公開講座のコーディネーターとして企画・運営に携わった。	一般市民
竹内一人	松山市小中学校 PTA 連合会 公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団	「キッズジョブまつやま 2022」の協力員として職業ガイダンスを行った。	小中学生
高田智世	日本臨床検査学教育協議会 日本臨床検査技師会	臨地実習指導者講習会のファシリテーターを担当した。	臨床検査技師
高田智世	松山赤十字病院	2 級臨床検査士（臨床化学）受験のための研修受け入れを行った。	臨床検査技師
その他の活動		合計件数	14 件

VI 学生の 地域交流活動報告

VI 学生の地域交流活動報告

1. 学生ボランティア登録制度

1) 運用実績

- (1) ボランティア登録数は個人登録が 32 名、団体登録が 1 団体であった（令和 5 年 3 月現在）。
今年度より、本制度に一度登録をすれば、卒業までボランティア登録者・団体として扱うこととした。本年度は、昨年度登録した個人登録 36 名と 1 団体を含めて、68 名（延べ）、2 団体にボランティア募集内容について周知した。
- (2) 外部団体からのボランティア募集要請件数 4 件、学内からのボランティア要請件数 1 件であった。
- (3) ボランティア活動実績 4 件

学生ボランティア活動実績（令和 4 年度）

	名称	主催	時期	場所	参加学生数	活動の内容
1	「健康フェスタ 2022」	一般社団法人 愛媛県臨床検査技師会 株式会社 フジ	9 月 24 日 (土) 9 月 25 日 (日)	エミフル MASAKI	9 名	検査機器による測定 や臨床検査技師の仕事に関する説明 や関連パンフレットの配布等
2	ねんりんピック愛媛のえひめ 2023 スポーツウエルネス吹矢リハーサル大会	ねんりんピック愛媛のえひめ 2023 砥部町実行委員会	10 月 23 日 (日)	砥部町陶街道ゆとり公園	3 名	受付・検温・血圧測定などの業務に従事
3	麻生小学校「校区探検」	本学地域交流センター 事業	11 月 11 日 (金)	愛媛県立医療技術大学	4 名	学内の案内補助・実習室の説明・質疑応答などを実施
4	「とべの里冒険クラブ」ボランティアリーダー養成事業	砥部町教育委員会	7 月～2 月	砥部町内砥部中央公民館 長曾池キャンプ場	3 名	R 5 年度の「とべの里冒険クラブ」を計画・運営するための研修を実施

ボランティア参加学生数 16 名

*なお、この制度を経由せず、教員やサークルへの直接依頼により実施しているボランティアもある

2) 開設についての申し合わせ事項

学生ボランティア登録制度の申し合わせ事項である「学生ボランティア登録サイトの開設について」は本活動報告書 79 ページに掲載している。

2. 学生サークルの地域交流

ボランティア系サークル3つの地域貢献活動について紹介する。

医技タット

部長 松田莉奈

医技タットは、「東日本大震災に学び、南海地震に備える」という理念を掲げ、平成26年に設立された災害医療ボランティアサークルです。今年度は10月に学生祭で東日本大震災の写真や資料展示を行いました。医技大生のみではなく、オープンキャンパスで訪れていた高校生にもどのような災害であったのかを伝える機会となりました。また11月には小学生が参加している防災キャンプにてHUG（避難所運営ゲーム）を行いました。避難所がどのように運営されているのかを知ってもらうことが出来ました。また参加させてもらった私たちも、小学生目線で知れなかったことを知ることができ、今後のHUGや活動につなげていきたいと感じました。

今年度の前期はコロナによって多くのイベントが中止となってしまいましたが、イベントを通して災害や防災に関して伝えることが出来ました。今後もいろいろな方に興味を持ってもらい、災害に関する情報を伝えていけたらと思います。



学生祭



防災キャンプ

Peer サークル

会計 榎野美乃里

私たちPeerサークルは、私たちの心や身体について中高生に向けて伝えるピアエデュケーションを行っています。Peerとは「仲間」という意味です。私たち思春期ピアカウンセラーと参加してくれた人が同じ目線・同じ立場で考え、壁のない関係を作るように心掛けています。

今年度は、川之石高校の学生さんへのピアエデュケーションを3年生と協力して行いました。コロナ禍ということもあり対面ではなく私たちが作成した動画を見ってもらう形となりました。「自分も相手も大切に～みんなちがう、ステキな人生を～」というテーマで、自分も相手も夢や将来を大切にするためにどうしたらいいのかを一緒に考えました。体制も内容も新しい試みであり、2年生としては初のピアエデュケーションということもあり不安な所もありましたが、高校生から「将来のことを真剣に考えることができた」という感想を頂き、良いエデュケーションとなったのではないかと思います。

これからもPeerを知ってもらい、活動の幅が広げられるように精進していきます。

学生赤十字奉仕団

部長 有間ひかり

私たちは、献血啓発活動等を中心にボランティア活動を行なっています。献血啓発活動は、大学、献血ルーム、ショッピングセンター等で行っています。ハロウィンやクリスマスなどの季節に合わせた献血の啓発活動では、学生が仮装や手作りの看板を使って呼びかけたり、献血をしてくださった方に記念品を手渡したりしています。また、月に1度県内の学生で集まりこれまでのボランティア活動の振り返りや、改善点を出し合いより良いボランティア活動ができるよう大学の垣根を越えて協力しあっています。また、愛媛県が属している中国・四国ブロックで情報共有をすることで他県の取り組みについても知ることができました。また、私たちが行なっている活動を広げることもできていると感じます。より多くの視点から考えることができるため、このような情報共有によってより良いボランティア活動ができていると感じます。

また、献血の啓発活動では献血についての説明を求められたり、小さな子供と話したりする機会もあります。その際、どのように順序立てて話すのか、何の情報を聞きたいのか素早く理解して対応する能力が必要です。そのような力は最初からあるわけではありません。先輩や他大学の人、献血ルームのスタッフの方を見ながらその方々をお手本とし、多くの方と関わることで自分が身につけた力を活用しつつ改善していく中で少しずつ身につけていると感じます。これは将来医療従事者として仕事をし、患者さんと話す際に役に立つことであると考えます。実際にありがとうと言われること、活動が滞りなく終わった達成感は今後も学生がボランティア活動を続ける力となっています。新型コロナウイルスの影響による行動制限は少しずつ緩和されつつあるため、これからは他の活動にもお互いに安全に参加できるようになれる日々がくることを願っています。



VII 地域への 施設開放状況

Ⅶ 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用している。

○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）が主催するストレッチ教室（火曜教室）にあたり、施設開放を行っている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日

4月～3月 10：00～11：00

開催回数：年間 23 回 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、開催回数を削減した。

利用者：砥部町住民

利用人数：20 人程度/回、延べ人数 460 人

<活動の様子>



VIII 參考資料

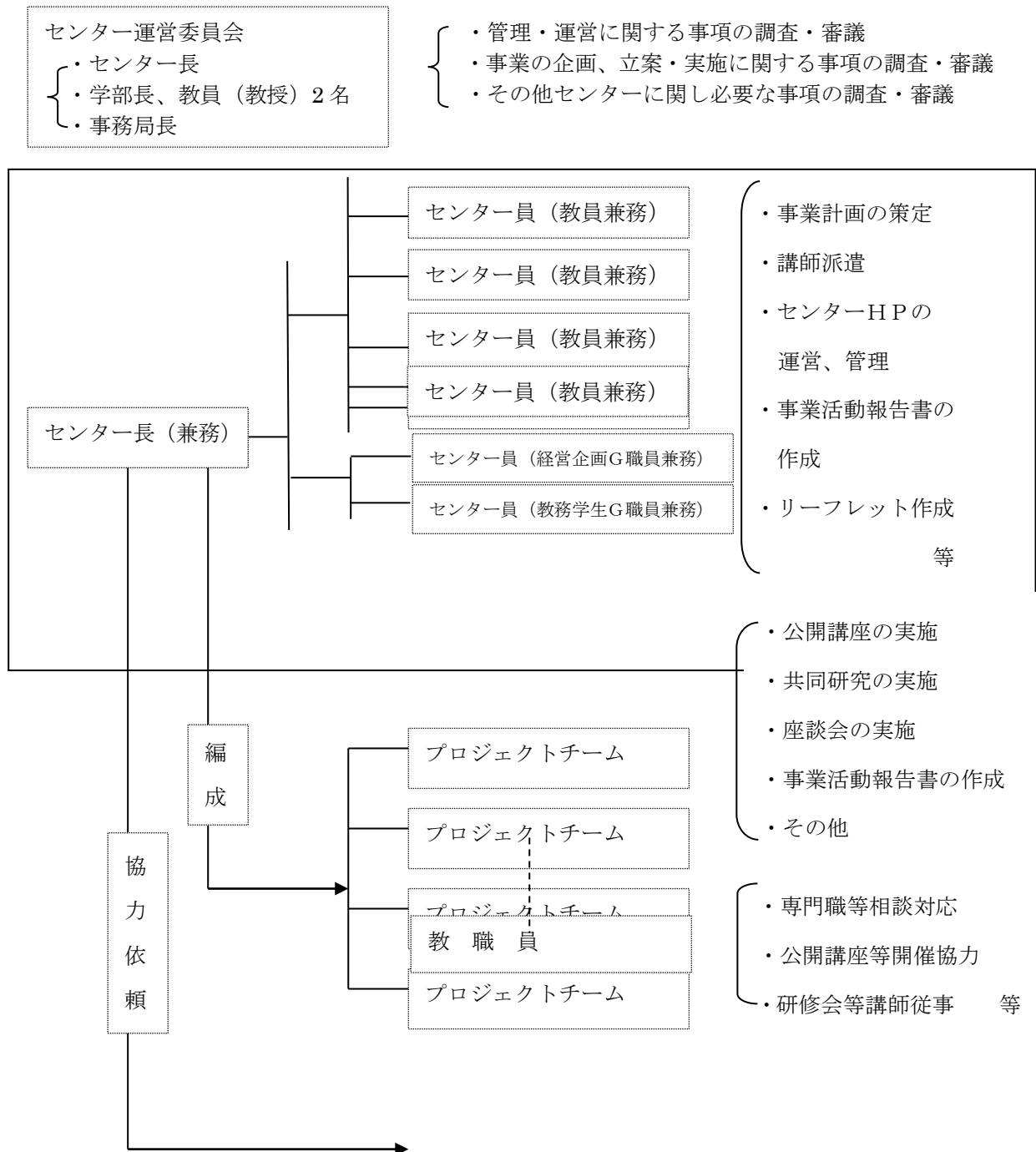
VIII 参考資料

地域交流センターの組織（令和5年3月31日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の他、センター員7名（教員5名、事務局職員2名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員5名）を設置している。

地域交流センター運営図



(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

- 2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。
- 3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

- 2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
- (3) その他センターに関し必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(運営)

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 7 条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、

意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

学生ボランティア登録サイトの開設について

地域交流センター・学生委員会
2011年6月（改正2014年12月）

1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。本学地域交流センター事業等へのボランティア募集にも活用します。

2. 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。

(2) 団体登録

ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4. 登録、紹介の流れ

